

令和元年度 事業報告書

社 会 福 祉 法 人 天 光 会
特 別 養 護 老 人 ホ ー ム 恵 光 園
短 期 入 所 生 活 介 護 事 業 所 恵 光 園
デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー 恵 光 園
居 宅 介 護 支 援 事 業 所 恵 光 園
ケ ア ハ ウ ス 恵 光 園

令和元年度 社会福祉法人天光会 事業報告

【法人理念】

福祉を通じて、人との絆を深め、子供から高齢者まで、福祉に携わる地域社会を目指します。

1. 活動内容

理事6名 監事2名 評議員7名

理事会開催 定時評議員会開催 監事監査の実施 評議員選任解任委員会開催

- ①平成30年度決算報告及び事業活動報告、監査報告
- ②令和元年度補正予算の承認（年2回）
- ③令和2年度予算案及び事業計画案の承認
- ④役員の推薦
- ⑤評議員候補者の推薦
- ⑥役員の選任
- ⑦理事長の選任
- ⑧評議員の選任
- ⑨就業規則等の変更
- ⑩運営規程の変更
- ⑪監査結果の報告及び改善
- ⑫業務執行報告（年2回）

2. 地域における公益的な取組

買物支援サービス事業（エリア：大宮台1・2丁目）

令和元年	実施日数	利用総数	協力総数	運転手総数
4月	4日	32名	4名	4名
5月	5日	36名	5名	5名
6月	4日	30名	4名	4名
7月	4日	30名	4名	4名
8月	4日	30名	4名	4名
9月	4日	25名	4名	4名
10月	5日	32名	5名	5名
11月	4日	24名	4名	4名
12月	4日	31名	4名	4名
1月	4日	31名	4名	4名
2月	4日	28名	4名	4名
3月	0日	新型コロナウイルスのため休止		
合計	46日	329名	46名	46名

平成31年度 特別養護老人ホーム恵光園 事業報告書

・平成31年度の稼働率

稼働率(前年比)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
平成31年度	94%	93%	94%	95%	91%	89%	94%
平成30年度	100%	98%	100%	94%	96%	94%	95%
	11月	12月	1月	2月	3月		
平成31年度	96%	97%	92%	96%	96%		
平成30年度	96%	97%	95%	98%	98%		

	目標値	実績	
稼働率	98%	94%	
平均要介護度		男3.8	女4.1
新規入居者数		22名	
退去者数		21名	
年間入院件数		34名	
看取り対応		12名	

昨年度に続き、長期入所は、ロングショートを利用していた方ばかりでなく、主に病院や老健、自宅で生活していた方を対象に空所となったところを補うよう対応した。新規入所22名のうち、ロングショートからは11名、外部からは11名だった。外部からの入所がスムーズに行えず、空所が3週間以上空いてしまったこともあった。今後できるだけスムーズに、空所期間が短く入所できるよう、家族やケアマネ、病院などと連携を図り対応していく。また、退所者が出そうな場合は事前に次の申込者の入所先や自宅、家族に連絡を取り、準備してもらうよう連絡する。入居申し込みで待機している方がまだ少ない為、病院や老健、居宅にFAXを送信した。現状少ない状態は続いている為、今後もファックスなどで情報を発信していく。

・苦情について

家族や入居者からの苦情について、2件あり。内容としては、職員による入居者への対応についての苦情であった。家族には、園内で事実確認をしたうえで、確認できたものに関しては謝罪。職員に対しては、主任から指導。苦情については各部署連携を図り、できるだけ早く迅速に対応することを心がけたい。

・事故報告について

千葉市に提出した事故報告書は、6件。内容は骨折が2件、誤嚥が4件の合計6件。31年度は誤薬が多く発生。薬局がらみのアクシデントもあるため、薬局とも連携を図っていく。

・個別ケアについて

食事・入浴・排泄に関しては、個々の身体状況に合わせたケアをした。身体の変化や本人の希望で変更する際にはすぐに話し合いの場を設け対応した。

・年間行事について

園で行う大きな行事は、各部署連携し、大きなミスなくできていた。入居者より、毎年行事の内容が同じなので、内容に変化が欲しいと訴えあった。各ユニットで個別で行う外出や外食、買い物、レク等についても、各ユニット偏りなく企画できていた。どのユニットも、その時期に合った行事企画をしており、入居者もその家族も喜ばれていた。

平成31年度 ユニット型特別養護老人ホーム恵光園 事業報告書

・平成31年度の稼働率

稼働率(前年比)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
平成31年度	100%	99%	97%	100%	97%	98%	98%
平成30年度	99%	98%	96%	98%	96%	99%	100%
	11月	12月	1月	2月	3月		
平成31年度	100%	97%	98%	100%	99%		
平成30年度	97%	100%	100%	100%	100%		

	目標値	実績	
稼働率	98%	99%	
平均要介護度		男3.2	女3.7
新規入居者数		3名	
退去者数		3名	
年間入院件数		6名	
看取り対応		1名	

昨年度に続き、長期入所は、ロングショートを利用していた方ばかりでなく、病院や老健、自宅で生活していた方を対象に、空所となったところを補うよう対応した。新規入所3名の全員が病院や老健・グループホームからの入所であった。外部からの入所は比較的スムーズに行え、空所期間も10日以内であった。入居申し込みで待機している方が少しずつ増えているが、まだ少ない為、病院や老健、居宅にFAXを送信。現状少ない状態は今後も続くと考えられるため、ファックスなどで情報を発信していく。

・苦情について

家族や入居者からの苦情について、別館では0件。今年度は0件であったが、苦情発生時は各部署連携を図り、できるだけ早く迅速に対応することを心がける。

・事故報告について

千葉市に提出した事故報告書は、別館で3件。内容は骨折が2件、切り傷が1件、誤薬が1件。事故防止委員会でもあがっていた職員が関わる防げる事故については、0を目指していく。

・個別ケアについて

食事・入浴・排泄に関しては、個々の身体状況に合わせたケアをしている。本人の要望に対し、できるだけその要望に応えるよう、各ユニットで創意工夫している。身体の変化や本人の希望で変更する際には、すぐに話し合いの場を設け対応できていた。

・年同行事について

園で行う大きな行事は、各部署連携し、大きなミスなくできていた。入居者より、毎年行事の内容が同じなので、内容に変化が欲しいと訴えあった。各ユニットで行う個別の外出や外食、買い物、レク等についても、各ユニット偏りなく企画できていた。どのユニットも、その時期に合った行事企画を計画しており、入居者やその家族は喜ばれていた。

短期入所生活介護事業所 恵光園 R1年度事業報告書

〈 反省 〉

1. 今年度の稼働率 全体 92.5%

平均要介護度 3.3(男性3.2 女性3.4)

本館 91.5% 別館 94.5%

男女比率 男性37% 女性63%

2. 退所者

	本館	別館	計
長期入所へ	11名	1名	12
他施設へ	1名	0名	1
入院退所	20名	2名	22
自宅へ	0名	1名	1
死亡	0名	0名	0
計	32名	4名	36

3. 新規入所者

	本館			別館		
	男	女	計	男	女	計
LS	9名	17名	26名	4名	1名	5名
SS	3名	3名	6名	9名	5名	14名
計	12名	20名	32名	13名	6名	19名

4. 照会件数・内訳及び利用件数

内 訳	本館		別館		合計	
	照会数	利用数	照会数	利用数	照会数	利用数
あんしん	4	0	0	0	4	0
他事業所居宅	80	14	26	8	106	22
当園 //	3	3	5	6	8	9
地域連携室	13	1	4	0	17	1
他施設	12	1	2	0	14	1
家族紹介	1	0	2	0	3	0
ネット・見学等	9	0	2	0	11	0
計	122	19	41	14	163	33

・9月4名、3月6名含むほぼ毎月数名の退所者(入院や特養入居)があり、稼働率に影響が出てしまった。引き続き空床発生時に地域包括支援センター、居宅、地域連携室等へ空き情報を随時FAX及び連絡し、空床が続く事のないよう早期に対応する。男性女女性利用者・居室タイプ別の問い合わせに対し、逃さないようにする。課長・長期相談員との連携、入所検討委員会での内容に沿い居室変更・新規入所者の対応等スムーズにできるよう努める。

5. 家族とのコミュニケーションについては、日頃からの連絡・報告等対応出来つつある。

面会時家族の考え等確認・共有できるよう時間の許す限り話し合いを行う。

対応に関し苦情を受けたケース1件があり、対応全般に関し再検討を行った。今後同様のケース再や他のクレームを受ける事がないよう、日頃から各部署と連携しながら職員全体で注意していく。

6. 千葉市に提出した事故報告は4件(誤薬1件・表皮剥離1件・骨折2件)。ユニット職員、事故防止委!で検討し、再発防止に取り組んだ。

6. 整髪・衣服等利用者の身だしなみ及び車椅子や居室環境に関し、未だ不十分な点があり改善が必要。利用者の薬に関し、落薬が度々発生。原因究明・改善策の検討及び再度マニュアルの周知・徹底。薬に携わる全職員がしっかり意識し対応していく。

7. 年間行事計画の買い物・外出については実行できなかった部分も多く、次年度の課題として工夫し細やかなサービスをしていきたい。また、行事以外での個別のニーズ対応も検討・実施していく。

ユニット型短期入所生活介護事業所 恵光園 R1年度事業報告書

〈 反省 〉

1. 今年度の稼働率 全体 92.5%

平均要介護度 3.2(男性2.9 女性3.5)

本館 91.5% 別館 94.5%

男女比率 男性56% 女性44%

2. 退所者

	本館	別館	計
長期入所へ	11名	1名	12
他施設へ	1名	0名	1
入院退所	20名	2名	22
自宅へ	0名	1名	1
死亡	0名	0名	0
計	32名	4名	36

3. 新規入所者

	本館			別館		
	男	女	計	男	女	計
LS	9名	17名	26名	4名	1名	5名
SS	3名	3名	6名	9名	5名	14名
計	12名	20名	32名	13名	6名	19名

4. 照会件数・内訳及び利用件数

内 訳	本館		別館		合計	
	照会数	利用数	照会数	利用数	照会数	利用数
あんしん	4	0	0	0	4	0
他事業所居宅	80	14	26	8	106	22
当園 "	3	3	5	6	8	9
地域連携室	13	1	4	0	17	1
他施設	12	1	2	0	14	1
家族紹介	1	0	2	0	3	0
ネット・見学等	9	0	2	0	11	0
計	122	19	41	14	163	33

・大きな動きは12月LS2名の退所であったがSS空床が影響し、目標の95%には今一步届かなかった。引き続き空床発生の際は、地域包括支援センター、居宅、地域連携室等へ空き情報を随時FAX及び連絡し、空床が続く事のないよう早期に対応する。男性女女性利用者・居室タイプ別の問い合わせに対し、逃さないようにする。課長・長期相談員との連携、入所検討委員会での内容に沿い居室変更・新規入所者の対応等スムーズにできるよう努める。

5. 家族とのコミュニケーションについては、日頃からの連絡・報告等対応出来つつある。

面会時家族の考え等確認・共有できるよう時間の許す限り話し合いを行う。

対応に関し苦情を受けたケース1件があり、対応全般に関し再検討を行った。今後同様のケース再や他のクレームを受ける事が無いよう、日頃から各部署と連携しながら職員全体で注意していく。

6. 千葉市に提出した事故報告は2件(誤薬2件)。ユニット職員、事故防止委員会で検討し、再発防止に取り組んだ。

6. 整髪・衣服等利用者の身だしなみ及び車椅子や居室環境に関し、未だ不十分な点があり改善が必要。利用者の薬に関し、落薬が度々発生。原因究明・改善策の検討及び再度マニュアルの周知・徹底。薬に携わる全職員がしっかりと意識し対応していく。

7. 年間行事計画の買い物・外出については実行できなかった部分も多く、次年度の課題として工夫し細やかなサービスをしていきたい。また、行事以外での個別のニーズ対応も検討・実施していく。

平成31(令和1)年度 短期入所生活介護事業所事業報告書

シヨートステイ定員数 全体30名 全体目標稼働率 95%

本館 20名

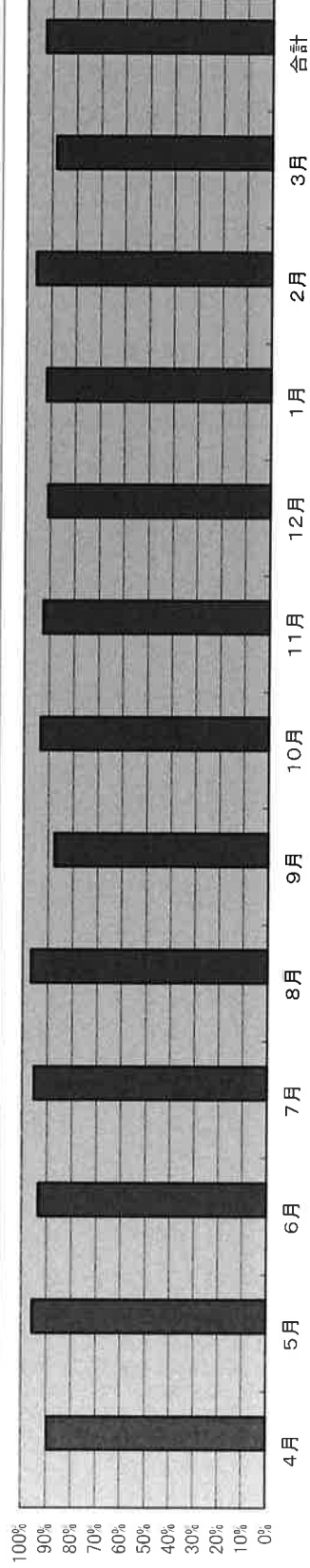
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延べ日数	600	620	600	620	620	600	620	600	620	620	580	620	7320
利用実績	530	590	559	578	596	500	565	553	568	568	562	530	6699
稼働率	88.3%	95.2%	93.2%	93.2%	96.1%	83.3%	91.1%	92.2%	91.6%	91.6%	96.9%	85.5%	91.5%

別館 10名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日定員	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延べ日数	300	310	300	310	310	300	310	300	310	310	290	310	3660
利用実績	276	299	281	307	302	287	303	279	277	285	274	290	3460
稼働率	92.0%	96.5%	93.7%	99.0%	97.4%	95.7%	97.7%	93.0%	89.4%	91.9%	94.5%	93.5%	94.5%

全体 30名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全体の目標	89.6%	95.6%	93.3%	95.2%	96.6%	87.4%	93.3%	92.4%	90.9%	91.7%	96.1%	88.2%	92.5%
	89.55%	95.59%	93.33%	95.16%	96.55%	87.44%	93.33%	92.44%	90.86%	91.72%	96.09%	88.17%	92.52%



令和元年度 特別養護老人ホーム 恵光園 医務室実績報告

- * 救急搬送者 23 名
- * 入院者数 41 名
- * ターミナルケア者数 15 名
- * 死亡者数 14 名
- * 外来受診（他院）者数 207 回
- * 回診 46 回 1349 名/年
- * 胃ろう注入 7 名 3 食/日

【処置】

- * 褥瘡 1339 回処置
- * 包帯交換 85 処置
- * 軟膏 10163 処置
- * インスリン注射 944 回施行
- * フォルテオ他骨の注射 2 名
- * 血糖値測定 246 回施行
- * バルーンカテーテル管理 7 名
- * ストマ管理 1 名
- * 吸引（緊急時除く） 7 名

【その他】

- * 利用者・職員健診 12 月
- * 利用者・職員インフルエンザ予防接種 10 月～11 月
- * 園内研修 6 月：感染症・褥瘡 10 月：手洗い留置カテーテル管理
2 月：吸引酸素・救急法 3 月：ターミナルケア

令和1年度 栄養課事業報告

■食事サービスの充実

春:たけのこ、菜の花、イチゴなど

夏:そうめん、きゅうり、なす、すいかなど

秋:きのこ、栗、さつま芋など

冬:大根、白菜、みかんなど

季節の食材を使用し、四季を感じて頂けるよう献立に組み込みました。

行事食と御馳走の日は、毎月2回利用者様の好きな刺身、天ぷらを中心に季節の食材を入れ提供できました。嚥下困難者でも食べられる「やわらか大福」を提供したところ、喜んで頂けました。今後も皆さんに満足いただけるような食事内容を考えていきたいと思ひます。

■栄養管理

栄養ケアマネジメントが不十分なところがあった為、更に介護員、医務、相談員との連携が必要だと感じました。カンファレンス等にも積極的に参加し、利用者様の状態を細かく把握できるよう動いていきたいと思ひます。

■献立会議

献立会議で各部署から出た意見に対して、レオックと改善できるよう話し合いを行いました。会議で決定した事や、連絡事項を全体に伝える事が不完全だったので、その部分の改善と栄養に関する知識の普及を行っていきたくと思ひます。

■衛生管理・安全管理の徹底

厨房内の清掃は常に行うようレオックには指導しています。日曜日などを使い換気扇、床の清掃を行うなど、厨房内を清潔に保てるよう清掃には力を入れていきたくと思ひます。

■備蓄食品

実際に災害が起きた時にスムーズな食事提供が出来るよう周知されていませんでした。台風による停電を経験し、食事提供方法、保管場所、備蓄食品の内容の見直しなどを行い、災害が起こった時に慌てるのではなく、事前に何通りかの想定をし動けるよう考えておきたいと思ひます。

■他職種との連携の徹底

他職種と日々の連絡や会議、カンファレンス等を通じて日常的な情報交換・共有の徹底が行えればと思ひます。

令和 1 年度 業務 内容

	選択食	ごちそうの日	行事食
4月	手作りしゅうまい タラの黒酢あんかけ	ご飯 すまし汁 刺身盛り合わせ 筑前煮 塩昆布和え いちご	『昭和の日』 たけのこご飯・すまし汁 天ぷら 里芋のそぼろあんかけ フルーツみつ豆
5月	ハムカツ ツナ入り手作りオムレツ	大人お子様ランチ (ピラフ・目玉焼きハンバーグ・ カニクリームコロッケ・マカロニグラタン) ブロッコリーとエビのサラダ プリンアラモード	『母の日』 ちらし寿司・みそ汁 かぶの煮物 菜の花の柚子和え バニラババロア・フルーツのせ
6月	いわし団子煮 クリームコロッケトマトソースかけ	菜飯 みそ汁 天ぷら 冷奴 紅茶ゼリー	『父の日』 穴子ちらし寿司 みそ汁 豆腐の五目あん 山芋の短冊和え マンゴー
7月	キーマカレー温玉のせ スープカレー	鮭ちらし寿司 豚汁 花しゅうまい 夏野菜の香味和え すいか	『七夕』 七夕そうめん 天ぷら えびしんじょうのあんかけ カルピスゼリー
8月	天津飯 ねぎ塩豚丼	『夏祭り』 焼きそば 豚汁 鶏肉の唐揚げ その他:屋台メニュー	『お盆』 そうめん てんぷら 夏野菜の浅漬け 抹茶の水ようかん和大福
9月	海老マカロニグラタン ハムエッグフライ	鮭ちらし すまし汁 いとこ煮 ポン酢和え ぶどうゼリー	『敬老の日』 赤飯・すまし汁 天ぷら 茶碗蒸し 水ようかん
10月	オムライスデミグラスソース オムライスクリームソース	ご飯・みそ汁 刺身盛り合わせ 揚げ出し豆腐 春菊のお浸し スイートポテト	『体育の日』 ゆかりご飯 すまし汁 天ぷら かぶとしんじょうの煮物 マロンババロア
11月	エビマヨ 手作りかに玉	『創立記念日』 ご飯 すまし汁 刺身盛り合わせ 煮物 りんごのコンポート	『明治天皇の誕生日』 五目ご飯 すまし汁 天ぷら 白和え フルーツポンチ
12月	ロールキャベツトマトソース ロールキャベツクリームソース	赤飯 すまし汁 刺身盛り合わせ 茶碗蒸し 酢味噌和え キウイフルーツ	『クリスマス』 ピラフ コーンスープ フライドチキン タラモサラダ チョコババロア
1月	キャベツとひき肉のミルフィーユ みぞれ鍋風	ご飯 さつま汁 天ぷら なすの胡麻醤油和え 抹茶の水ようかん和大福	『元旦』 赤飯・すまし汁 有頭ボイルエビ・昆布巻き 栗きんとん・伊達巻き 紅白なます・茶碗蒸し
2月	ポテトスコッチエッグ えびかつアボカドタルタル	天丼 豚汁 菜の花のからし和え 栗ようかん	『節分』 助六(巻き寿司・いなり寿司) けんちん汁・刺身盛り合わせ 茄子の味噌炒め みかん
3月	さわらの菜種焼き 照り焼きつくね	ご飯・すまし汁 刺身盛り合わせ 菜の花の柚子和え 茄子の田楽 フルーツポンチ	『ひな祭り』 ちらし寿司 すまし汁 天ぷら 茶碗蒸し いちごババロア

令和 1年度 荷重平均 栄養所要量

令和2年3月31日現在

エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	鉄分 (mg)	レチノール当量 (μ g)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)	塩分 (g)
1526	60.0	40.2	600	6.5	575	0.83	1.02	100	7.5

令和 1年 年度 給与 栄養素量

	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	鉄分 (mg)	レチノール当量 (μ g)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)	塩分 (g)
4月	1562	59.9	43.0	492	6.5	509	0.69	0.88	88	9.0
5月	1584	60.5	42.9	490	6.7	532	0.77	0.92	86	9.0
6月	1562	61.0	42.3	502	6.7	531	0.72	0.90	84	9.0
7月	1545	60.3	43.2	510	6.6	534	0.74	0.91	84	8.7
8月	1564	59.2	43.2	503	6.6	520	0.73	0.88	88	9.0
9月	1578	59.4	43.9	512	6.7	523	0.74	0.94	86	8.9
10月	1548	60.4	41.3	482	6.7	539	0.73	0.91	82	8.9
11月	1569	59.3	43.0	490	6.8	512	0.76	0.88	87	9.1
12月	1569	60.0	43.0	492	6.5	520	0.77	0.89	89	9.2
1月	1572	60.0	42.3	502	6.6	499	0.75	0.88	88	9.1
2月	1575	60.5	43.8	508	6.9	512	0.74	0.92	87	9.1
3月	1559	59.2	42.2	512	6.8	538	0.73	0.90	87	8.9
平均	1,566	60.0	42.8	500	6.7	522	0.75	0.92	86	9.0

形態別 喫食者数

●特養(長期入所) 50名

主食		副食		汁物		特別食	
(形態)	(人数)	(形態)	(人数)	(形態)	(人数)	(形態)	(人数)
常食	17	常菜	12	常菜(きざみ)	29	経管栄養	3
軟ごはん	8	粗きざみ	10	超きざみ	2		
全粥	17	きざみ	10	汁のみ	0		
ミキサー	2	超きざみ	9	とろみ汁	13	空所	1
おにぎり	0	ミキサー	3			入院者	2

●ユニットケア(長期入所) 30名

主食		副食		汁物		特別食	
(形態)	(人数)	(形態)	(人数)	(形態)	(人数)	(形態)	(人数)
常食	16	常菜	14	常菜(きざみ)	25	経管栄養	0
軟ごはん	4	粗きざみ	4	超きざみ	1		
全粥	8	きざみ	7	汁のみ	1		
ミキサー	2	超きざみ	3	とろみ汁	3		
おにぎり	0	ミキサー	2			入院者	0

●ケアハウス 15名

主食		副食		汁物	
(形態)	(人数)	(形態)	(人数)	(形態)	(人数)
常食	11	常菜	10	常菜	15
軟ごはん	3	粗きざみ	3		
全粥	1	きざみ	2		

平成31年度 通所介護事業 総合事業 実績報告書

【実績】・営業日数

H28	311日
H29	311日
H30	310日 (311)
H31	307日 (312)

・稼働率平均

H28	62.0%
H29	63.6% (1.6%増)
H30	69.9% (6.3%増)
H31	70.1% (0.2%増)

・利用延べ人数

H28	4,824人
H29	4,946人 (122人増)
H30	5,421人 (475人増)
H31	5,377人 (44人減)

・新規契約数

H28	16人
H29	19人 3人増
H30	11人 8人減
H31	13人 2人増

・利用中止者数

H28	12人
H29	12人 0人
H30	8人 4人減
H31	13人 5人増

・全体請求額

H28	41,684円	272円
H29	45,589円	910円 差額 3,905.638増
H30	51,221円	055円 差額 5,631.145増
H31	50,824円	608円 差額 396.447減

【評価】

・H31年度は、年間稼働率を70%に目標を掲げ運営を行ってきた。

今年度は、夏に大型台風による被害により5日間の臨時休業をしいられました。被害総額も約100万を超え、それ以上にご利用者様も自宅で大変な時期を過ごされ体調や生活に変化が見られました。営業再開後も利用率が低下し、厳しい状況が続きましたが、常日頃からの信頼関係の構築により、徐々にデイサービスを利用した方が安心する。ご家族様からもデイサービスを利用すると負担も少なく助かるとの事で、利用の回数を増やすなど、改めてデイサービスの必要性を職員一同強く感じました。

・年度終わりには、新型コロナウイルスが問題視され、高齢者施設でもさまざまな対策を講じながら、運営を継続し感染者が出ない様に行っていました。その中で、ご利用者様・ご家族様から新型コロナウイルスの感染を懸念され、利用を中止される方も出てきました。

・今年度の目標稼働率を何とか達成することが出来ました。まずは安定した利用者への確保と現在利用している利用者の体調管理に配慮し、利用中止者を減らす努力を行いました。また、医療機関との連携も図り医療依存度の高い利用者も可能な限り受け入れることが出来ました。

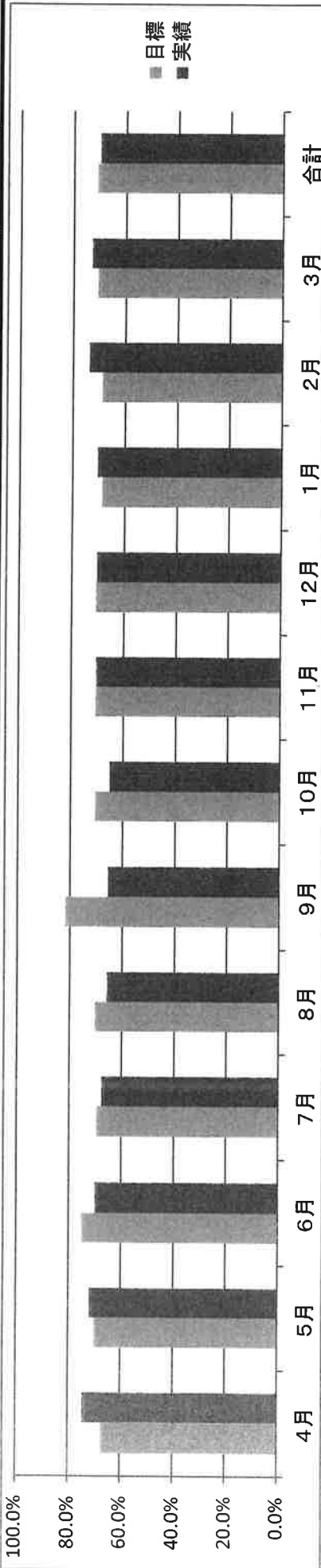
・稼働率が上がった反面、職員への負担が大きくなり、事故の発生やサービスの質の低下等、新たな課題が浮き彫りになりました。また、年々利用者のニーズが多様化しており、職員のスキル向上が求められています。

・今後の課題としては、新型コロナウイルスの影響はまだまだ続くと思われ、利用者が安心してサービスが継続できるよう、職員全体で業務改善を行うと共に、職員の働きやすい職場環境の整備も同時に検討が必要であると感じました。

平成31年度 デイサービスセンター事業稼働率報告書

デイサービス利用者1日定員数 25名 デイサービス利用者計画推進率 目標稼働率 70%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日定員	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
稼働日数	26	27	25	27	27	21	26	26	26	25	25	26	307
延べ人数	650	675	625	675	675	525	650	650	650	625	625	650	7675
目標延べ人数	440	475	470	470	475	430	460	460	460	430	430	460	5460
稼働予定率	67.7%	70.4%	75.2%	69.6%	70.4%	81.9%	70.8%	70.8%	70.8%	68.8%	68.8%	70.8%	71.1%
利用延べ人数	485	487	439	457	445	345	424	459	458	441	462	475	5377
稼働率	74.6%	72.1%	70.2%	67.7%	65.9%	65.7%	65.2%	70.6%	70.5%	70.6%	73.9%	73.1%	70.1%



年間行事報告

4月 お花見	10月 秋の運動会
5月 母の日 菖蒲湯	11月 食事会
6月 父の日	12月 クリスマス会 餅つき
7月 七夕祭り	1月 正月行事
8月 夏祭り 恵光園納涼祭	2月 初詣 節分 すいとん
9月 味覚狩り 敬老会	3月 ひな祭り

* 台風や新型コロナウイルスの影響により一部行事中止

毎月行事

料理教室	慰問	ボランティア	委員会	研修
買い物行事	大正琴	囲碁	身体拘束・虐待(月1)	園内研修
生け花教室	尺八	将棋	事故防止(月1)	月1回
セレクトランチ	ブラスバンド	麻雀	感染症予防(月1)	外部講師研修
ティーパーティー	紙芝居	書道	献立(月1)	年1回
お風呂の日	歌・カラオケ	手芸	防災(月1)	外部研修
誕生会	フラダンス・フラメンコ	傾聴	労働衛生(月1)	適時
	頭の体操	学生ボラ	生活向上(月1)	

慰問

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
料理教室	大正琴	尺八	ブラスバンド	紙芝居	歌・カラオケ	フラダンス・フラメンコ	頭の体操
買い物行事	尺八	ブラスバンド	紙芝居	歌・カラオケ	フラダンス・フラメンコ	頭の体操	
生け花教室	尺八	ブラスバンド	紙芝居	歌・カラオケ	フラダンス・フラメンコ	頭の体操	
セレクトランチ	尺八	ブラスバンド	紙芝居	歌・カラオケ	フラダンス・フラメンコ	頭の体操	
ティーパーティー	尺八	ブラスバンド	紙芝居	歌・カラオケ	フラダンス・フラメンコ	頭の体操	
お風呂の日	尺八	ブラスバンド	紙芝居	歌・カラオケ	フラダンス・フラメンコ	頭の体操	
誕生会	尺八	ブラスバンド	紙芝居	歌・カラオケ	フラダンス・フラメンコ	頭の体操	

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
山 崎	25	26	27	25	25	25	24	25	26	28	30	28	314
葛 岡	24	26	29	28	27	30	30	31	28	30	29	28	340
介護件数	49	52	56	53	52	55	54	56	54	58	59	56	654
稼働率(%)	77	80	85	81	79	82	80	81	78	84	86	81	81
山 崎	14	14	14	13	12	11	11	9	8	9	9	9	133
葛 岡	8	8	7	8	8	7	6	6	6	6	7	6	83
予防件数	22	22	21	21	20	18	17	15	14	15	16	15	216
	11	11	10.5	10.5	10	9	8.5	7.5	7	7.5	8	7.5	108
介護・予防合計	60	63	66.5	63.5	62	64	62.5	63.5	61	65.5	67	63.5	762
認定調査	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	3	1	8

- ・新規契約件数 要介護 20件 要支援 4件 (H30年度 要介護 20件、要支援 3件)
新規契約者の紹介先の内訳・・・あんしん大宮台2件、あんしん千城台1件、あんしん誉田2件、他居宅から7件、病院2件、直接家族や知り合いから3件、要支援から要介護になった4件、小規模多機能他
- ・契約終了件数 要介護 9件 要支援 3件 (H30年度 要介護 16件 要支援 2件)
契約終了内訳・・・長期入院2件、特養、老健入所3件、転居2件、死亡4件、他居宅へ1件

新規契約件数に関しては前年度に比べ殆ど変わりなかったが、終了件数が前年度より6件少なくなっている。その為年間の実績卜外数としてはH30年度が、要介護が534件から654件と120件増となっている。要支援は逆に75件減となっているが、要介護、要支援の合計としては、H30年度679.5件から762件と82.5件増となっている。全体の伸び率は大きかったが、まだ目標件数の支援合わせて1人39件には達していない。R1年度は他居宅から引継ぎの案件が多かった。今まであんしん千城台からの依頼を多くもらっていたが、担当が変わって話が少なくなってしまったので、なるべく訪問等しながら繋がりを持つようにし、今後目標件数に達せられるように努力をしたい。

- ・各種研修については、法定研修にはそれぞれ参加したが他の研修等の参加ができていない為、今後も時間を作りながら参加していくようにしたい。
- ・特定事業所集中減算は、1年通して減算はなかった為書類作成し保管している。
- ・R1年度は、台風災害という今までに経験のしたことのない状況が起き、ケアマネとしてどのような動きをしたらいいのか戸惑いがあった。利用者に電話連絡をして状況確認等おこない、連絡の取れない利用者には自宅訪問し体調や状況確認を行った。今後の対応としてマニュアルや利用者の住んでいる地区の避難場所

や自治会関係、民生員、利用しているサービス事業所等をわかりやすくして、スムーズに連携が取れるように緊急連絡先一覧表を作成していくようにする。

- ・2月からはコロナウイルス感染症で、自宅訪問や担当者会議等本来はやらなくてはいけない事だが控えるよう通達があったが、どこまでの制限があるのか明確にわからず、市に相談や居宅内で話し合いしながら新規や必要な利用者には短時間や玄関先にて自宅訪問するが、他は照会内容を FAX、各事業所や利用者、家族に電話にて聞き取りをするなど人との接触は極力控え現在も行っている。今後このような状況も考えられ、業務的に自宅での在宅ワークの検討も必要かと思われるが状況としては難しいと思われる。お互いに勤務ができない状況も考えられ、常日頃からお互いの利用者などの情報共有をしながら、できる範囲で対応ができるようにしておきたい。

2019年度 ケアハウス事業報告書

《運営方針》

ケアハウスが居住であることを踏まえつつ、高齢者の特性に配慮した住み良い住居を提供し、利用者の自主性の尊重を基本とし、利用者が明るく、心豊かに生活できるよう、配慮していくものである。

《事業目標・計画》

利用者の生活の場として安心して過ごせる環境作りを目指し、ニーズに対し速やかに対応していく。又、家族や地域との交流を持つことで協力・理解をより一層高める。

【処遇】

1. 援助計画は変化や見直しの時期が来た際、職員ミーティングで話し合い対応した。
2. 月1回の料理教室・手工芸クラブでの作品作り等企画し実施。
3. 関係機関との連絡を密にし担当者会議を行いサービスの向上に努めた。
4. アンケート調査の実施に務めたい。

【健康管理】

1. 定期的に病院に付き添い利用者が理解しにくい医師からの指示を聞き正しい情報を伝えた。又、日々の状況をデータと共に医師に伝え利用者の健康維持に努めた。特変があった際には、些細なことでも家族に伝え共有した。
2. 利用者が感染しない様に配慮し、必要なことは随時声かけした。

【防災訓練の実施】

1. 日中夜間想定 of 防災訓練実施した。利用者・職員緊急時の対応の経験を深めた。
2. 防災委員会を1ヶ月に1回開催し知識・技術を深めた。
3. 訓練を行っていた為9月9日の台風での停電で大きな混乱や体調不良などはなかった。

【ボランティアの・慰問の受け入れ】

1. 受け入れを増やし利用者の社会交流の場を広げた。

【環境整備・施設整備】

1. 共有部の整備に務めた。
2. 園芸クラブとして利用者が中庭等で花を育て楽しむことが出来た。
3. 職員の異動や入れ替わりが激しく、生活環境が安定しなかった。

【苦情への取り組み】

1. 苦情とならないうちに話を傾聴今後は、より一層意見の言いやすい環境を整える。
2. 苦情や意見を言いやすい環境を作り、不満が大きくなる前に処理で来ている。

【個人情報保護】

1. 法令・規範を厳守、個人情報の保護に努めた。

《本年度の利用者移動状況》（各月1日の人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
女	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
退去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15

《入・退居者》

なし

《入院者》

女性	4月2日～17日	青葉病院
女性	9月20日～10月1日	千葉中央メディカルセンター
男性	7月19日～8月14	千葉中央メディカルセンター

《サービス利用状況》

4月現在		介護保険				介護保険外	障害福祉サービス	
介護度	人数	サービス利用者	外部サービス	生活支援	身体介助	通所サービス	移動支援24時間	外出付き添い10時間
介護度1	6	6		6			2	1
介護度2	2	0	1	2		1		
介護度3	1	1		1	1			
介護度4	1	1						
自立者	5							
	15名	8	1	9	1	1	2	1

訪問歯科
リハビリ・マッサージ

男性2名 女性4名
男性1名 女性1名

10月現在		介護保険				介護保険外	障害福祉サービス	
介護度	人数	サービス利用者	外部サービス	生活支援	身体介助	通所サービス	移動支援24時間	外出付き添い10時間
介護度1	6	6		6			2	1
介護度2	2	0	1	2		1		
介護度3	1	1		1	1			
介護度4	1	1						
自立者	5							
	15名	8	1	9	1	1	2	1

訪問歯科
リハビリ・マッサージ

男性2名 女性4名
男性1名 女性1名

2019年度 ケアハウス行事報告書(令和2年5月報告)

《前期》

《後期》

4月	懇談会 ※お花見(外食) 千城台クリニック受診 ※料理教室(おむすび) ジャスコ買物 移動スーパー		10月	懇談会・誕生会 千城台クリニック受診 ※みどりが丘保育園運動会観覧 外出買物ユニモ 移動スーパー	
5月	懇談会 しまむら 千城台クリニック受診 ※外食会「スシロー」 母の日 移動スーパー 外出買い物(イオン)		11月	懇談会 千城台クリニック受診 創立記念日/文化祭 外出買物(ユニモ) ※そば打ち ※プライム楽団ライブ 移動スーパー	
6月	懇談会・誕生会 成田山参拝 千城台クリニック受診 父の日(おやじバンド) 移動スーパー ※どらやき 外出買い物(イオン)		12月	懇談会・誕生会 ※Xmas会 千城台クリニック受診 外出買物(ユニモ) ボランティア交流会 移動スーパー	
7月	懇談会・誕生会 千城台クリニック受診 外出買物(イオン) ※ゼリー作り 移動スーパー		1月	元旦獅子舞新年挨拶 懇談会 初詣 千城台クリニック受診 移動スーパー 外出買物(イオン)	
8月	懇談会・誕生会 千城台クリニック受診 ※流しそうめん 外出買い物(イオン) ※聖心女子(軽音・演劇・吹奏 楽部慰問) ※恵光園夏祭り 移動スーパー		2月	懇談会 節分 千城台クリニック受診 移動スーパー	
9月	懇談会・誕生会 千城台クリニック受診 外出買い物(ユニモ) ※敬老会 サンライズ九十九里 移動スーパー ※かき氷		3月	懇談会 ※アカペ桃花会 千城台クリニック受診 ※防災訓練 外出買物(イオン) 移動スーパー ※ソバ打ち	中止

令和元年度 事業報告書

特別養護老人ホーム恵光園シャイニー中央
ショートステイ恵光園シャイニー中央
小規模多機能型居宅介護「ほとりの家」

社会福祉法人天光会

特別養護老人ホーム恵光園シャイニー中央

【施設方針】

- ① 法人の経営理念に添って事業を推進する。
- ② 利用者の方々はおお客様です
- ③ お客様が安心して、普通の生活を送れるように支援します
- ④ お客様の立場に立って行動します。

【行動方針】

- ① 恵光園シャイニー中央は、職員の各種マニュアルを完成させ、組織的な動きに支障なきようにする。
- ② 恵光園シャイニー中央は、社会福祉をめぐる外部環境の変化に対応するべく導入すべき施策計画をたてこれを実行する。
- ③ 事故は限りなく「0」に近づけていくために「プロセス」と「分析」を職員に正確にフィードバックさせていく。
- ④ 職員の行動工程で「無駄」「無理」「ムラ」のない成果主義と「報・連・相」の実践を行う。
- ⑤ 行動サイクル計画、実行、是正、見直しを行い、能率的、効果的な業務をマネジメントする。
- ⑥ 定期的な人事考課を確実に行う。

【利用者本位】

施設だからと言って諦めない「普通の暮らし」

- ① ユニットケアの生活を優先し家庭の延長を目指す
- ② 社会福祉援助技術の基本として自己実現や自立支援のサポートサービスを提供する
- ③ お客さまの生活背景を尊重し、健康の維持増進と心身のバランスを保持して信頼関係を最優先する
- ④ フリー入浴者を支援し、いつでも入浴が可能な状態を確保する
- ⑤ 外出支援を通じて社会生活とのつながりを重視する。
- ⑥ 余暇活動を導入し自立を支援する。
- ⑦ 意見、苦情、不満、トラブルに対し、相談窓口は速やかに対応する

【地域社会との調和】

- ① 地域との交流を大切にし、常に連携を図る（地域交流室の活用）
毎週金曜日、午前中、『体操の会』として地域に開放。
- ② ボランティアの導入と支援を積極的に行う
傾聴ボランティア、将棋ボランティア、その他、各種行事ボランティア
- ③ 実習生受入
淑徳大看護科学生 7日間×2グループ 計7名
- ④ 年間行事には常に家族や第三者委員等に参加を呼びかける
- ⑤ 地域住民や社会に対し情報を公開し恵光園シャイニー中央の理解促進をする
- ⑥ 地域の障害者の活動の一環として介護予防事業の実施の補助の参加をさせる

【職員関係】

- ① 職員全体の組織の能力向上を図り、人材育成システム等を活用し自己の能力開発と研鑽をめざす
- ② 最新介護機器を活用し、介護の軽減を図る（ほのぼの・眠りスキャン・音声入力）
- ③ 次世代を担う中間職員の育成のための方針を確立する
- ④ 職員の専門性の向上を図る意味で外部の研修に参加させ、思考を柔軟にし、職場の活性化を方向づける
- ⑤ 個別ニーズに対応したケアプランの充実を図り、ケアプランは職員1人ひとりが立案可能となり、サービス面でもその遂行確認ができるように努力する

【各種委員会】

会議名	日時	おもな出席者	備考
運営委員会 労働衛生委員会	月に1回	主任・相談員・フロアリーダー ケアマネジャー	詳細は別紙参照
ユニットリーダー (生活向上委員会)	月に1回	ユニットリーダー 相談員・ケアマネジャー	詳細は別紙参照
身体拘束・虐待・事故防止委員会	月に1回	ユニット職員 看護師	詳細は別紙参照
献立会議	月に1回	管理栄養士・ユニット職員	詳細は別紙参照
感染症・褥瘡委員会	年に4回	医務・ユニット職員	必要時に開催
広報委員会	年に4回	ユニット職員	
行事委員会	年に4回	ユニット職員	担当制
防災委員会	年に4回	ユニット職員	

ショートステイ 恵光園シャイニー中央

1. 事業運営の基本方針

【経営理念】

地域に立脚する公的・社会的福祉施設であり、かつ社会的責任を有する施設であることを深く自覚し、ご利用者さまお一人お一人の人格を尊重しつつ日々安心して、健康で生き生きと明るく活気に満ちた、普通の生活を主体的に送れるよう、誠心誠意支援いたします。

【運営の方針】

要支援、要介護状態にあるご利用者及び、そのご家族の立場に立った介護の提供に努めるとともに、地域社会との交流や結びつきを重視し、市区町村や他の居宅サービス事業所、保健医療サービス機関等との連携に努め、当法人が事業展開していく地域での介護サービスの提供及びネットワークの構築に広く貢献してまいります。

【職員の心得】

- ① 職員自らが、利用したいと思えるような施設作りを目指します。
- ② 利用者の方々からのナースコールは命綱であり、即対応します。
- ③ 利用者への対応は優しく、且つ迅速・丁寧いたします。
- ④ 職員は、常に心身の健康に心掛け、安定した和やかな気持ちで、利用者の方々に接し、良好なコミュニケーションに努めます。
- ⑤ 職員は、常に利用者の方々や来園者の方々に、笑顔で礼儀正しい態度と言葉遣いで接します。

私たちは、自ら利用したいと思えるような施設づくりを目指して日々取り組んでいきます。目標にはまだまだ努力が必要です。高齢者が人生の最後まで穏やかに暮らせることを最大限に支えていきたいと思っています。

2 利用者確保の取り組み策

・数多くある短期入所施設の中から選択して頂ける施設となるよう、ご利用者個々人に合わせたきめ細かいサービスを提供してまいります。

- ・定期的に居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、医療機関、介護保険施設等を訪問し情報発信を行い、馴染みの関係作り、信頼関係の構築に努めてまいります。
- ・介護保険法令、その他の関係諸法令のコンプライアンス順守に努め、適切なリスクマネジメントを実施する事で安定した事業運営を行ってまいります。
- ・利用者やその家族、居宅介護支援事業者等の相談やニーズに対し、すばやく対応できるように努め、そのための体制作りを行っていきます。また、医療ニーズの高い利用者や困難事例にも対応できるように、前向きな姿勢で受け入れ態勢の強化を図ってまいります。
- ・随時見学会や相談等の対応を行い、いつでも気軽に声をかけられる事業所であることに努めてまいります。

3 従業員の研修

人材育成に関して、介護福祉士や介護支援専門員、社会福祉士等の資格取得を目標に福祉の専門職としてのキャリアアップを実施します。また、外部研修等への参加や勉強会の実施、介護保険関係諸法令や介護知識・医療知識を学び、専門職としてのスキルアップを目指します。

現場での育成指導は、基本理念・業務方針を共通目標に施設全体の職員が共有・周知できる体制を作ります。その為に、会議やミーティングにおける意見交換や情報の共有、指示や伝達に努めます。

[職員の資質向上のための研修計画]

1) 内部研修

研修を受講し学ぶことはもちろんの事、研修では施設職員間で講師を担当し、研修準備段階で勉強の機会を設ける事や、研修後担当講師と内部研修委員会で講義演習の振り返りを行う事で、個々のレベルアップを図ります。

2) 外部研修

- * 近隣施設との合同勉強会を積極的に開催し、共同で行ってまいります。
- * 県や市、地域包括支援センター等の開催する研修会等に積極的に参加します。

4 サービス提供計画

【提供するサービスの基本方針】

- ① 利用者の方々はお客さまです。
- ② 利用者が安心して、普通の生活を送れるように支援します。
- ③ 利用者の立場に立って行動します。

私たち社会福祉法人天光会は、職員の介護観を利用者に押し付けることなく、利用者一人一人の人格を尊重し日々安心して、健康で生き生きと明るく活気に満ちた、普通の生活が送れるように支援します。

【利用者の意志及び人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスの提供】

“普通の暮らし”

天気の良い日は外に散歩に出かけます。暖かい季節では、食事をいつものリビングだけでなく、6カ月に一度は外食にも出かけます。時には買い物にも出かけます。

都川の遊歩道や外出先での出会い、地域の人々と気軽に声を交わします。こうした普通の生活を支援することが私たちの目標です。もちろん、食事・排泄・入浴の3大介護をはじめとするサービスの提供にあたっては、人権を尊重しプライバシーの保護に万全を期するように努めます。

利用者の安全確保を常に考慮し事故防止に努めるとともに、緊急の際には速やかに適切な対応を図ります。

公平・公正・良質な介護サービスの提供を心掛けるとともに、利用者個々の置かれている状況や環境を考慮したサービスの提供に努めます。また利用者の日々の様子、状態の把握に努め、ご家族、居宅サービス事業者等との情報共有を行い、適切なサービスが円滑に行えるようにします。

【能力に応じ自立した生活を支援するサービス提供の考え方】

“できることは、ご自分でいつまでも”

① 自律的な日常生活

利用者の日常生活上の援助が過剰なものとならないように、一人一人の身体機能や生活リズムを把握した「個別ケア」の実践をします。

- ・利用者の意向を尊重し、その人らしい生活が送れるように支援します。
ユニットケアでは、居室や共同生活室などの居住環境と、介護する側の組織体制、馴染みの職員との信頼関係により、利用者が混乱することなく安心して生活を継続していくことができます。
- ・職員が、利用者の方々の『安心』を支え、さらに『楽しい』と感じて頂くことで、日常生活を通じて機能訓練等を無理なく自然に行い、生活リズムを整えることで意欲の向上を目ざして頂きます。

② 社会関係の構築

単に利用者が、生活の中で役割を持つことを支援するにとどまらず、利用者相互の間での交流、社会性の維持を支援します。

③ 日常生活における家事

食事の簡単な準備や配膳、後片付け、清掃やゴミ出し等を職員と共に行うこ

とにより、他の利用者との交流や生活リズムが生まれることにも留意します。

④ 入浴

入浴が、単に身体の清潔を維持するだけのものに留まらず、気分転換や楽しみの一つとなるように個別対応の実施など、心理面での支援を行うものであることにも留意します。

⑤ 排せつ

入居者の心身の状態や排せつリズムの把握をもとに、自立支援の観点からトイレ誘導や排せつ介助など、利用者の意向と残存機能を活かした支援を行います。

※したい時にしたい事ができる生活の実現に努めます。

・入浴、食事の時間について

利用者の気持ちを大切に、可能な範囲で自由な時間に食事をし、家庭的な雰囲気での入浴を安全、個別に行えるようにします。特殊浴槽も用意し、ゆっくりと入浴して頂きます。

⑥ 医療処置・褥瘡予防

利用者に対する医療的ケアへの対応について、医療対応が必要な方、胃瘻・経管栄養・バルン留置者などの受け入れも行い、医療的な処置内容や身体状況のために、受け入れを制限しないようにしてまいります。病気が進行し、医療措置が必要になるケースもありますが、出来る限り在宅生活の継続の支援に努めます。また、褥瘡の発生を予防するため褥瘡対策チームを設置し、褥瘡のハイリスク者に対し、褥瘡予防の計画の作成、実践並びに評価を行うことで褥瘡発生の予防効果を向上させるように努めます。

⑦ その他

- ・地域のボランティアや実習生（中学校、高等学校、職業訓練校、企業など）の受け入れを通じ、地域福祉の向上や介護職の卵の育成、知識向上、意欲の向上を図ります。また、多くの地域住民に施設行事に参加していただけるよう「広報紙」の配布やインターネットに掲載して呼びかけます。
- ・施設行事として納涼祭や敬老会等を予定し、利用者の家族や地域の町内会長、民生委員や地域住民、ボランティア等に参加していただき、利用者と一緒に模様し物を楽しんでもらえるように計画してまいります。
- ・地域交流室の活用により、家族や地域住民との交流が気軽にできるようにしてまいります。

小規模多機能型居宅介護事業所

「ほとりの家」

事業運営の基本方針（基本理念、方針）

【事業所方針】

住み慣れた地域と社会で、自分らしい生活を支援していきます。

【行動方針】

- ① 職員むけに各種介護マニュアルを作成し、ケアの標準化を図る。
- ② 事故を限りなく「0」に近づけていくため、原因分析と対応方法の検討、評価を行い予防、再発に努める。
- ③ 業務の行動工程で、「無駄」「無理」「ムラ」の少ない合理的な体制づくりと業務手続を行い、「報告・連絡・相談」のもれがない体制作りを行っていく。
- ④ サービス計画において、都度の利用者及びその家族の意向の確認とサービス実施状況の評価、再検等を行い効率的・効果的で満足を得るサービスの提供及び業務をマネジメントに努めていく。

利用者確保の取り組み

- ・定期的に居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、医療機関、介護保険施設等を訪問し、情報発信を行い、馴染の関係作り・信頼関係の構築に努める。
 - ・介護保険法令、その他の関係諸法令のコンプライアンスに努め、適切なリスクマネジメントを実施する事で安定した事業運営を心がける。
 - ・利用者やその家族、居宅介護支援事業者等の相談やニーズにすぐに対応できるように努め、そのための体制作りを行う。
- また、医療ニーズの高い利用者や困難事例などにも対応できるように前向きな姿勢で受け入れ態勢の強化を図る。
- ・どのようなケースにも対応できるだけの職員の教育体制作りを行い、介護技術の習熟に努めケアの質の向上を目指す。
 - ・随時、見学会や相談等の対応を行い、いつでも気軽に声をかけられる事業所であることに努める。

【地域社会との交流の促進】

- ① 近隣の地域の行事や催しに参加し、関係づくりに努める。
- ② ボランティアの導入と支援を積極的に行う。
- ③ 実習生の受入、介護等体験学生の受入に努める。
- ④ 第三者評価、情報公開に対応できる組織作りを行っていく。
- ⑤ 地域住民や社会に対し広報を発行し、周知、理解の促進を図る。
- ⑥ 運営推進会議の開催を通じて地域の福祉ニーズを掘り起こす

従業者の研修

【職員の資質向上と研修】

- ① 職場内での OJT、法人内研修等を通じて自己の能力向上と研鑽をめざす。
- ② 職員 1 人ひとりの気づきや発想の転換を大切にし、創意工夫ができる力を引き出す。
- ③ 次世代を担う中間職員の育成のための方針を確立する。
- ④ 職員の専門性の向上を図るため法人外の研修への参加を促し、思考を柔軟にし、職場の活性化を図る。
- ⑤ 職員の資格取得、キャリアアップのためのサポート体制の充実を図る。

【サービス提供計画】

利用者の自立支援、自己決定、在宅生活の継続を支援の基本姿勢とし、サービスの提供に取り組んでいく。

① 自立支援

利用者の日々の身体状態、意欲、精神状態を把握し、自分でできること・したい事を実行能力も含め日々アセスメントし、安全に不安なく行えるように支援していく。また、支援するだけの介護技術、知識の習得を行いケアの質の向上を図っていく。

② 自己決定

介護者の介護観やより良いケアへの思い込みの押し付けをせず、利用者の意思や意向、思いに寄り添いながら、利用者との協同でサービス内容や日常行為、活動内容を決め、利用者とその家族が納得できるサービス提供のあり方を実践していく。

③ 生活の継続

利用者の役割や、習慣、嗜好、家族背景などを理解し、サービスの利用が自宅での生活や過去の生活と断絶したものとならず、過去から現在、在宅から事業所との流れが、その利用者らしい暮らしの継続となるように支援していく。

※事業所の中でのサービス提供を基本とするが、事業所の中でのみサービスが完結する事無く、利用者とその家族のニーズにてらし、地域社会、利用者の社会生活空間にも活動の枠を広げていけるように取り組んでいく。

○利用状況 長期入居 実績

入居率 94% (76 件) からスタートし、職員の充足に合わせ年明けで満床 (80 件) まで持ってくる。それに対し実際の実稼働 (入院・月内入退去での空所を抜いた実際の実稼働) は 4 月、87.7% からスタート。7 月で 92% まで引き上げる。

9、10、11 月で入居率は 97% まであげたものの、実稼働としては、入院数、入居ラグが増え、11 月には再度 87% まで落ち込む。入居率と実際の実稼働に 10% もの乖離が発生している。

入院率だけでなく入居の受け入れにも効果が出始める。入居スピードもアップし、入居率 99% を維持した状態で実稼働を 95.8% まであげられるようになり、年度を終える。

○利用状況 短期入居 実績

入居稼働率 85% すら 1 度も超えられないまま年度を終えてしまった。稼働が低くなった理由として、長期入居の実稼働を助ける為、ロングショートから長期への移行が数件あったこと、都合の良い日程に入れるショートショートの案件に余裕がなかったことが原因。提携医療機関の変更に伴い、その病院からコンスタントに紹介をもらえるようになった (ロング案件) ことで、一旦、ロングショートの割合を 8 割にし、稼働を増やすことを重視するよう方向転換している。年度末 85~90% の入居率を想定していたが、長期移行と想定外の契約解除、入院が相次ぎ数字を落としている。

○利用状況 小規模多機能 実績

順調に契約数を上げ、年末に一時満床稼働までもっていくが、その後、状態悪化や老健・ケアハウスなどへの移動理由で契約解除が相次ぐ。コンスタントに新規契約はいただいているが、満床時に余力を持っての案件獲得ができていなかった為、年明けからの連続した予想外の契約解除数に対応しきれなかった。営業でも様々な取り組みをおこなっているが、そのままコロナショックの波にのまれてしまい、マイナス 3 件で年度末を迎えている。

本年度 4 月から、長期から異動してくる予定だった契約社員の退職もあり、令和 2 年度は人員不足で人件費に余裕がある状況でスタートしている。

○人員計画について (介護・看護・事務・栄養士・運転手すべて含む)

昨年度スタート当初は、人員不足、退職者が多かったため、何よりも人員充足を優先することに重点を置いた。退職を防ぐためにも人員の補充は急務として捉え、そのためには一時的な派遣の導入 (4 件) の他、紹介会社 (2 件) も使用した。7、8 月くらいまでは一般企業が企画する就職フェスタや、広告宣伝費用等の部分での経費支出もおこない、採用関係に投資をおこなってきた。8 月以降は広告宣伝費含め、採用コストはかかっていない。

また、もともとのハローワークへのコネクションに加え、男女参画センター、就労支援センター等が企画する職業説明会に参加したり、研修等に協力することで経費をかけずに質の

高い人員の紹介を受けることもできた。

結果、平成 31 年度 4 月～令和 2 年 3 月までの 1 年間で累計 17 名の退社（産休・本部異動・派遣除く）があった一方で、新規入社を 27 名獲得できた。

年末の段階で計画通り、一旦充足となり、人員過多の状況を迎えている。

○運営計画

採用はできても退職が止まらない状況だった為、入社したばかりの新人が辞めない環境作りとして、ユニットでの新人の受け入れ方法・入社時研修制度の整備等をおこなった。随時、既存職員からヒアリングもおこない、問題点の洗い出しもおこなった。

採用が順調に進んだことと、法人で未経験者を採用し、本部恵光園で育てた職員 2 名も 1 月、シャイニーに異動となる。

結果、人員は年末の段階で充足、人員過多の状況を迎えた。

予定通り、人員の確保がある程度進んだので 1 月から介護・看護の両主任を立て、組織を組み立てる基盤を作る。

情報伝達、組織・会社としての基盤作り、社員教育、職員管理等々、これを機に様々な運営のアクションを起こしている。

人員充足のメドがたったところで、予定通り 1 月と 4 月の 2 回に渡って事業所内の大きな人事異動をおこなっている。ユニットによって人員の質の偏りが大きく、問題も多くあったので、この人事異動でばらつきを馴らし、施設運営の基盤を作り、また、様々な効果も期待している。その人事異動に一部反発もあり 3 月に退職が重なった。また、人員が過多になっていた為、3 月のタイミングでパート・契約社員の整理もおこなった為、数字上、3 月に退職人数が集中している。

3 月の退社に関しては、イレギュラーなものもあったが、ある程度は想定内の範囲のもの。ただ、半年前から入社が決まっていた職員も 2 名おり、結果、令和 2 年 4 月は欠員なしの状況でスタートしている。

今後は、ユニット間の運営に本格的に手を入れていく。介護の質、職員の意識・知識の向上を図らなくては根本的に働く環境の改善にはつながらず、退職予備軍も消えない。

各ユニットの運営、質を向上させることが結果的に介護保険収入増、経費削減につながる。

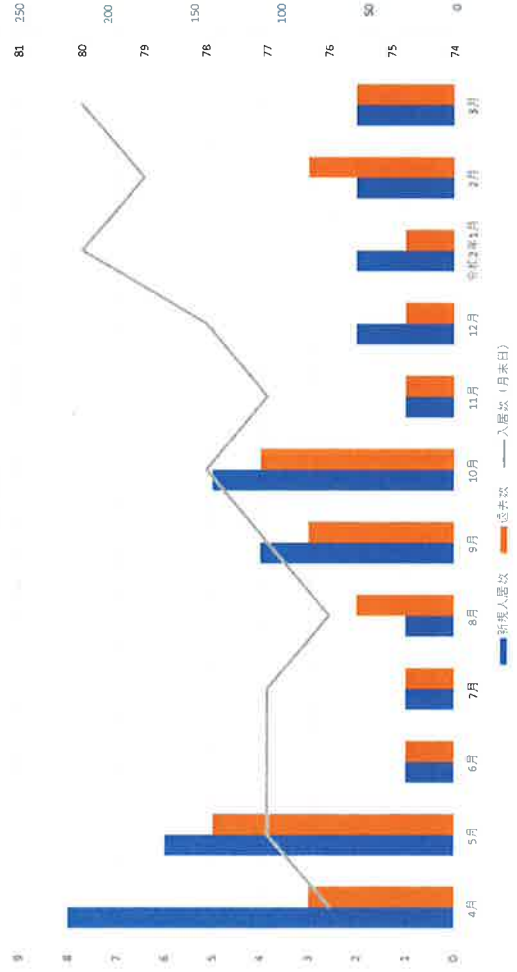
介護度の高い利用者の受け入れ、体調不良者の減少（入院者の減少）、残業時間の減少。

平成 31 年度でその基盤をある程度作ることができたので、令和 2 年度は本格的に運営の基盤を作る勝負の年になると考えている。

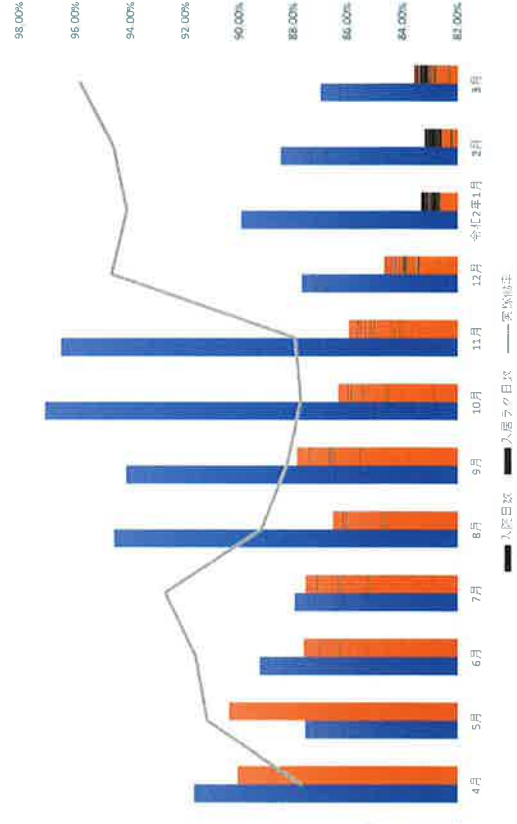
○利用状況 長期入居 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和2年1月	2月	3月
新規入居数	8	6	1	1	1	4	5	1	2	2	2	2
退去数	3	5	1	1	2	3	4	1	1	1	3	2
入居数(月末日)	76	77	77	77	76	77	78	77	78	80	79	80
入居稼働率 (契約ベース)	94.80%	94.20%	96.30%	96.50%	97.10%	96.00%	96.60%	97.00%	98.00%	99.00%	99.00%	99.00%
平均介護度	3.7	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9
実稼働率	87.74%	91.20%	91.62%	92.74%	89.19%	88.25%	87.74%	87.95%	94.71%	94.15%	94.64%	95.84%
入院日数	151	87	113	93	197	190	236	227	89	124	101	78
入院率	6.64%	3.72%	5.00%	3.88%	8.18%	8.24%	9.80%	9.70%	3.65%	5.08%	4.35%	3.18%
入居ラグ日数	126	131	88	87	71	92	68	62	42	21	19	25

入居状況



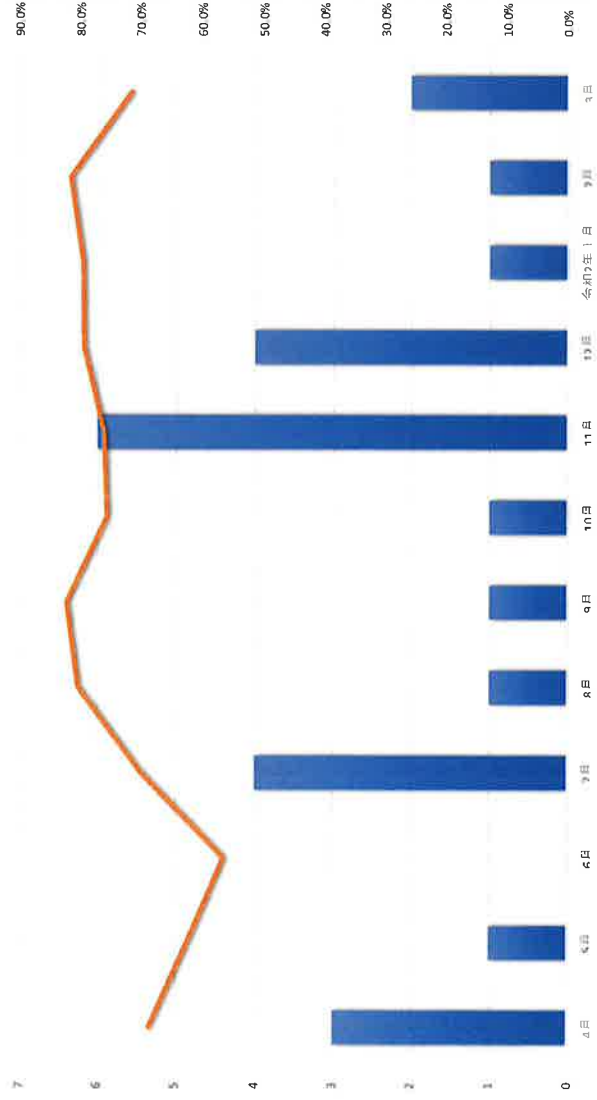
入院・入居ラグ日数



○利用状況 短期入居 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和2年1月	2月	3月
新規利用者数	3	1	0	4	1	1	1	6 (SS)	3 (SS)	1 (LS)	1 (SS)	1 (SS)
入居稼働率 (契約ベース)	69.0%	62.0%	57.0%	70.0%	80.0%	83.0%	76.0%	76.0%	80.0%	80.0%	82.0%	72.0%
入居実稼働率	68.7%	62.4%	56.5%	70.0%	80.5%	82.3%	75.6%	76.2%	79.5%	79.7%	81.7%	71.6%
平均介護度	3.4	3.3	3.4	3.3	3.2	3.2	3.2	3	3	3.2	3.2	3.2
契約終結数	1	1	2	0	0	0	(長期移動)	(長期移動)	0	0	0	1 (長期)
契約者増減	2	0	-2	4	1	1	0	5	3 (SS)	1 (LS)	1 (SS)	0

入居状況

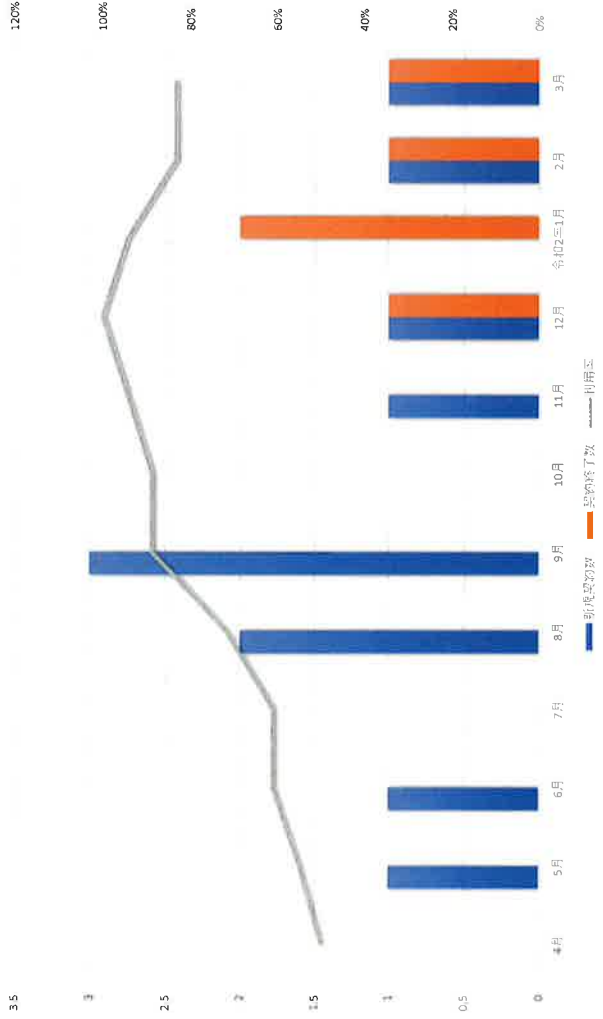


○利用状況 小規模多機能 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和2年1月	2月	3月
新規契約数	0	1	1	0	2	3	0	1	1	0	1	1
契約終了数	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (老健)	2 (訪問・病院)	1 (本部LS)	1 (LS)
平均介護度	2	1.8	2	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	2.2	2	2.1	2
平均利用時間	104.43	84.24	88.3	102.29	85.33	77.35	90.08	92.46	87.18	80.11	96.32	104.51
利用者数 (月末日)	9	10	11	11	13	16	16	17	18	17	15	15
利用率	50%	55%	61%	61%	72%	89%	89%	94%	100%	94%	83%	83%

定員18

利用・契約数



新規クリニックとの提携にあたって

在宅診療をメインとしているクリニックと提携することで、大方の医療を病院受診なしにホーム内で完結することができるようになった。

入院数、受診回数の減少。また、医療的な部分で受け入れの幅も格段に広がり、看取りもおこなえるようになった。入居に関してのスピードもあがり、稼働率は大幅にあがった。入居稼働率は10%近く上がり、それに加え、受診回数も極端に減少。毎日のようにあった受診はほぼなくなり、受診に伴う交通費はおろか運転手・看護師の人員費も大幅に削減できる結果になった。

また、在宅医療（施設でできる医療レベルの高さ）について、良い意味で職員の認識に変化が生まれている。それに合わせ、観察力・知識の向上が必要だとして、職員の質をあげる事にとりこんでいる。

研修体制どうという事だけでなく、通常の業務のやりとりの中で、医療だけでなく介護の質の向上という面でもすでに効果は表れている。

ショートステイでは、全20床中10名以上のご利用者も診ていただいている。

通常ショートステイのご利用者は、お一人お一人主治医が違う為、体調不良等の場合はご家族から主治医（病院）に連絡、ホームに来ていただき、主治医の病院へ受診に行っていただくといった形になる。だが、新規クリニック医師担当のご利用者に関してはホームから直接、医師に相談をすることができ、往診対応をとっていただくこともできるようになった。

体調不良になるリスクの高い小規模多機能のご利用者のご自宅に訪問診療という形でも入っていただけており、ご家族だけでなく職員も何かあった時は医師に相談できると安心している。

また、小規模多機能の新規契約に伴う認定調査、主治医意見書作成の為の受診受け入れや、新患受け入れにもご協力いただけており、小規模多機能の利用契約増進という面でも大きな助けをいただいている。

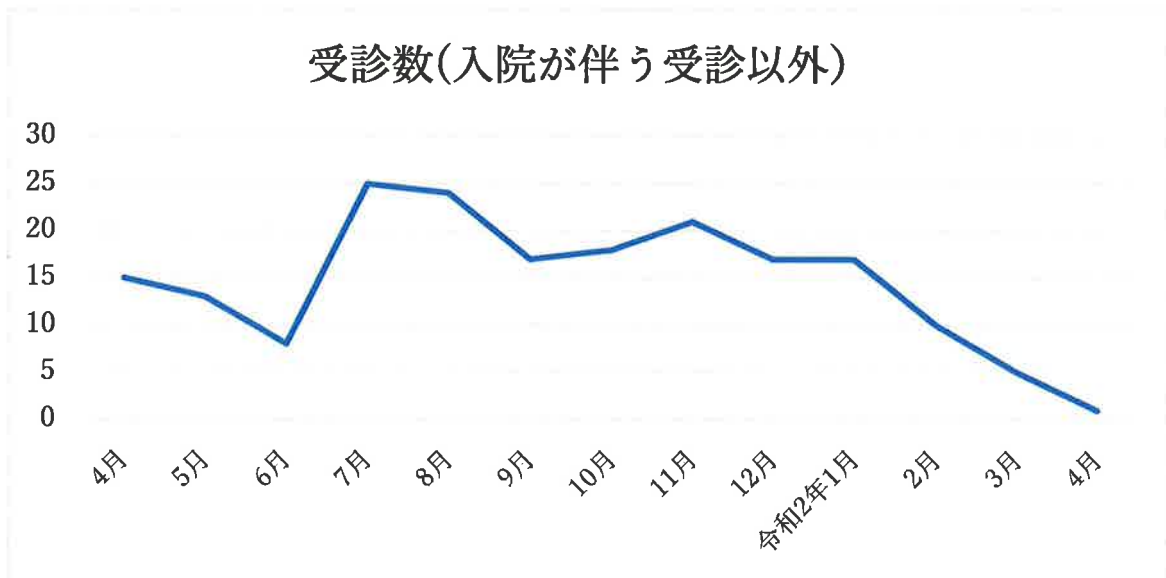
また、薬局の変更に伴い、ホームとしては薬局まで薬を取りに行く交通費・人員費の削減、薬のセットにかかる労力の削減ができるようになった。

薬のセットに関してはホーム看護師が業務の片手間でおこなっていたが、それを薬局がおこなってくれるようになり、薬のセットミスによる誤薬事故も減っている。

なによりもホーム看護師に医師の後ろ楯ができたことで自信をもって仕事ができるようになったこと、医療の面が心強くなったことが大きい。

○利用状況 長期入居 受診実績

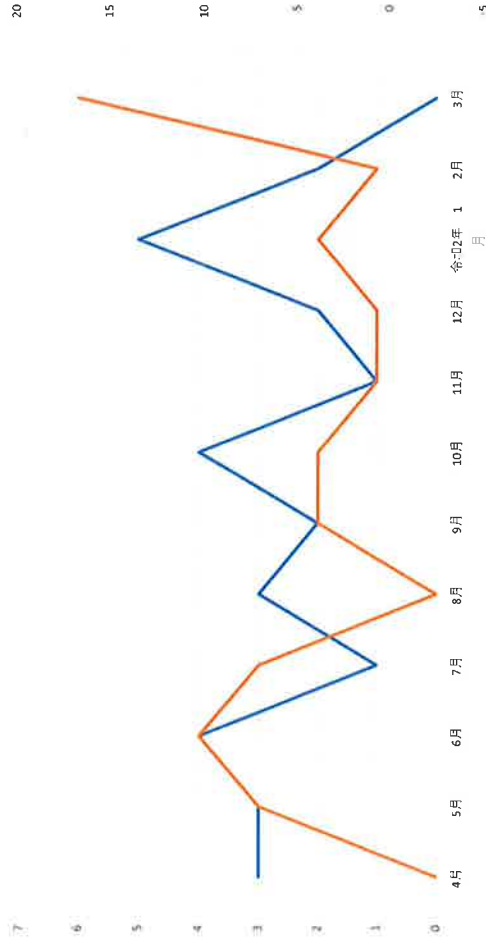
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和2年1月	2月	3月
受診数	15	13	8	25	24	17	18	21	17	17	10	5



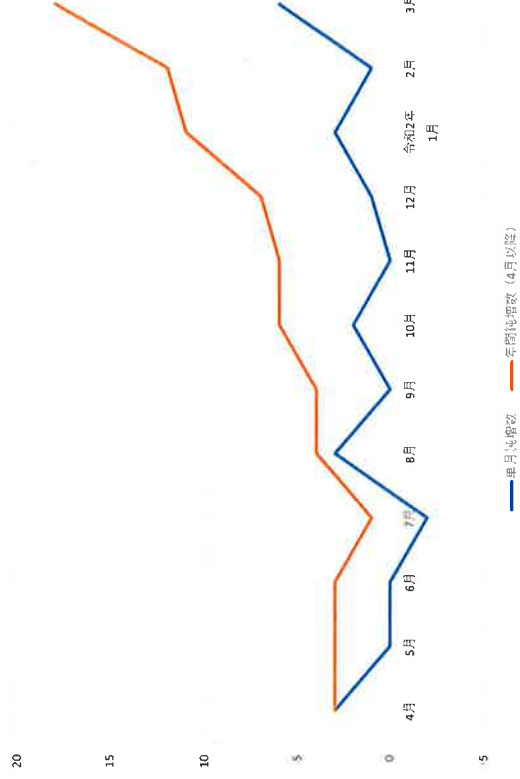
○人員推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和2年 1月	2月	3月
入社	3	3	4	1	3	1	4	1	2	5	2	0
退社 (異動・派遣込み)	0	2 (3)	4	2 (3)	0	1 (2)	1 (2)	0 (1)	0 (1)	2	1	6
単月純増数	3	0	0	-2	3	0	2	0	1	3	1	6
年間純増数 (4月以降)	3	3	3	1	4	4	6	6	7	11	12	18

入退社



職員純増数



委員会担当者

運営会議 開催日	開催頻度	3か月に1回	毎月1回	毎月1回	毎月1回	毎月1回	毎月1回	毎月1回	毎月1回	3か月に1回	3か月に1回						
	開催月・日	4月・7月 10月・1月	第3火曜日	第4火曜日	第4火曜日	第4火曜日	第4火曜日	第4木曜日	第1木曜日	5月・8月 11月・2月	6月・9月 12月・3月						
	開催時間	14:30～15:30	14:00～15:00	14:30～15:30	14:00～14:30	14:00～15:00	14:00～15:00	14:00～15:00	14:00～15:00	14:00～15:00	14:00～15:00						
運営会議		工口委員会・ 防災委員会		生活向上 委員会		身体拘束・虐 待委員会		事故防止 安全委員会		献立会議		労働衛生 委員会・IT委 員会		感染症・褥瘡 委員会		広報・行事委 員会	

園内研修 (第2月曜・第4月曜 14時～15時)

月	研修名	月	研修名
4		10	緊急対応・褥瘡
5	接遇・マナー	11	拘束・虐待
6		12	倫理・法令遵守
7	非常災害時	1	事故・アクシデント発生時の対応
8	感染症・食中毒	2	認知症ケア
9	事故発生	3	褥瘡について / 看取りに必要な知識

行事報告

各ユニットごとに企画・開催。

フロアごとや、施設全体の合同企画もあり。

4月	お誕生会 出前大会
5月	瀬又の鯉のぼり外出 母の日会 天ぶら大会
6月	昭和の森外出 お好み焼き大会 緑化植物園外出
7月	ハンバーガ大会 お茶会 流しそうめん大会
8月	スイカ割り大会 流しそうめん大会
9月	焼き芋大会 お彼岸おはぎ大会 千葉市中央博物館外出 出前大会
10月	さくらコスモス祭り外出 サンドイッチ大会 サンマ・焼き芋大会 ちゃんちゃん焼き大会 ハロウィン大会
11月	魚の解体ショーと焼き魚大会 さくら城外出（雨天の為中止） お蕎麦大会
12月	お茶会 白菜作り大会 焼きそば大会
1月	七草粥とぬか漬け大会 おでん大会 初詣～平山神社～
2月	ケーキ大会 誕生会 出前大会 職員によるかくし芸大会 青葉の森公園外出（ノロウィルスの為中止） 旬の焼き魚・焼き芋大会
3月	ひな祭り ホットケーキ大会 お誕生会・お茶会 パンビュッフェ大会

令和元年度 事業報告書

みどりが丘保育園

令和元年度 社会福祉法人天光会 みどりが丘保育園 事業報告

・利用者数

0歳児	1歳児 2歳児	3歳児	4歳児 5歳児	計
15	64	35	70	184

・職員配置

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	子育て	一時保育	フリー
保育士	5	6	5	3	2	2	2	2	2
保育補助		1	1						1

栄養士	1	看護師	2	育休	3
調理師	2	事務員	2		
調理補助	2	用務員	1		

・事業内容

各種会議

開催日	会議名	内容
4月	決起集会	・各部署・各リーダーの事業計画内容発表 等
毎週金曜日	週案会議	・来週の各部署予定報告 ・各係連絡事項報告 ・情報共有
第1水曜日/月	療育・保健衛生委員会	・気になる子の現状把握 ・感染症対策 ・療育保健についての指導
第2水曜日/月	事故・虐待防止委員会	・虐待についてのチェック項目確認 ・危険事項及び箇所の確認
第3水曜日/月	給食会議	・各クラス給食状況報告 ・食育指導計画確認
第4水曜日/月	防災会議	・避難訓練反省 ・防災対策チェック
随時	チーフ会議	・緊急事項対策 ・運営についてのミーティング 等

人材育成

・園内研修

開催月	内容	感想・反省
5月	幼児の身体のしくみ(外部講師)	理学療法士による工作中的の身体の使い方で怪我リスク軽減「からだのがっこう」のねらいや取組を周知できた
6月	わらべうた	スキンシップを交え、穏やかな空間づくりで笑顔あふれる園づくり子どもに合わせたゆったりとした時間を習慣として行っていきたい
7月	不審者対応(外部講師)	警察署員による、さすまたの使い方指導。様々な対処法を指導その時の状況で対応は変わる。その判断スキルを高めること。
8月	子どもとの関わり方(虐待の危険性)	グループ討議することで、振り返りから共感や共有ができた。その場面により、何が適切か、意見交換することで、思考の幅が広がった。
9月	各クラス環境設定について	子ども達が求める環境は何かをとらえ、設定に工夫をきたすことがとても大切。様々な視点でコンセプトを導き出せると良い。
10月	感染症・嘔吐処理・AED使用方法	嘔吐処理・AED共に実践形式で行えたが、年間通して、自主的な訓練を行わなければ、いざという時に対応できるかが不安である。
11月	アレルギー対応研修(外部講師)	千葉大附属病院の看護師によるレクチャーのもと、アレルギーの基礎知識と対処法をロールプレイング形式で学ぶ。
11月	保育事例考察	「子ども主体の保育」理解促進と質の向上を目指してを題材にグループワークを行う。何気ない仕草からの遊びの発展。そこから何を感じるかが重要。
12月	障がい児保育	事例を基に他クラス担任を交えて意見交換。担任保育士の悩みを共有し、様々な意見が飛び交う事で参考となり、今後の対応に活かす
1月	保育所保育指針	普段の関わりの中から、自分の考えやねらいが指針に沿ったものになっているか、わかりやすく勉強できた。
2月	年間反省	自分の保育、他人の保育、その考えや意見が職員間で飛び交う事で良い刺激になる。方針や指針に対して向き合う力を身につける。

・園外研修

開催月	研修名	内容
4月	新人社員セミナー 山武支会総会	自立型「人材」の育成・ビジネス基礎の習得 「委託研究発表」「保育者の資質向上を図る」「講演会」
5月	自閉症スペクトラム (ASD)の理解と支援 体育実技研修 施設保育研修 保育内容研修会 準職員研修	障害のある子の父として 運動会遊戯実技 ありんこ保育園視察研修 保護者対応(グループワーク) 子どもの育ちについて～絵本を通じて～
6月	保育内容実技 初級保育士研修会 給食衛生講習会 給食内容研修会 地域子育て支援拠点担当者研修会 施設長研修会	不審者対応 護身術について さすまたの使い方 すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現を目指して 給食施設の衛生管理について 意見交換会 子どもの育ちと親の育ちの課題 変革期に求められるリーダーシップ
7月	障害別基礎講座 食物アレルギー講座 中堅保育士研修会 保育内容実技	学習や生活に必要な見る力の理解を支援 アレルギーの基礎医学 食品栄養学 発達が気になる子ども達の支援について 普通救命講習
8月	子育て支援担当者研修会 こいく 子育て講座 子どもの健康と安全セミナー 保育内容実技	成田市子ども館、公津の杜コミュニティーセンター 視察研修 タオルであそぼう 日頃から備え子どもの命と心を守る保育保健 ボッチャの競技説明と実技体験
9月	保育内容実務	絵本と子育て～心を育む絵本の力～
10月	感染症予防研修 保育特別講座 病後児保育に関する研修会 施設の栄養情報交換会	感染症予防対策の基本と感染症拡大予防の為の対策 すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現を目指して 病後児保育室における看護師から見た子ども 乳幼児の食事状況と課題について
11月	子育てひろば実践交流	これからの地域子育て支援拠点と利用者支援事業
12月	千葉県保育園振興大会 アレルギー疾患対策研修会	子ども主体の保育について アレルギーに関する基礎知識
1月	給食施設研修会 保育士・保育教諭懇談会	日本人の食事摂取基準について 「子ども主体の保育」の理解促進と質の向上を目指して
	キャリアアップ研修	・マネジメント ・幼児教育 ・乳児保育 ・食育アレルギー対応
	子育て支援員研修	・地域保育コース 4名子育て支援員に認定

・資質向上への取り組み

- ・園内研修の計画を作成し取り組む。
- ・危機管理、安全対策、保育の充実などの研修に取り組む。
- ・自己の職務を知り、他者や他の業務を担う職員との交流を持つ場や園全体に保育力の向上が波及するように研修と実践が結びつくよう検討する。
- ・研修後には新たな気づきや感想など感じたことを各自記録し、文章力の向上を養う。
- ・自己目標シートの記入。中間目標達成率に反省を加え、個人面談にて評価・指導
- ・人事考課の実施。専用シートにて自己評価をもとにリーダー、副主任、主任、園長が評価・指導
- ・4月に決起集会(全体会議)を行い、1年間の流れや服務規程を再確認。
- ・ヒヤリハット、苦情報告などの記録から、改善へのミーティング実施。全職員に周知。

・新人教育

新卒者1名 正規職員1名 派遣社員1名 入職

- ・新人社員セミナー派遣
- ・1日の学びや反省、次の課題を保育士ノートに記録、提出、メンター所見・指導
- ・新人正規職員にメンター配置
- ・入職3か月面談
- ・救命救急対応新人社員向け特別指導

・実習・職場体験等の受け入れ実績

- ①大網中学校2年2名 職場体験2日間実施
- ②大網小学校6年9名 職場体験1日実施
- ③大網小学校2年16名 職場見学 1日実施
- ④千葉明德短期大学2年次生1名 1週間実習
- ⑤和洋女子大学3年次生2名 栄養士実習 1週間実習
- ⑥植草学園短期大学1年次生1名 1週間実習
- ⑦千葉女子専門学校1年次生2名 1週間実習
- ⑧中堅教諭等資質向上研修 中学校教諭1名 2日間実施
- ⑨城西国際大学インターシップ体験1年次生1名 3日間実施
- ⑩障害者就労移行支援施設実習2名 2日実施
- ⑪小学生ボランティア 7名

・目標とねらい

- ①次世代の保育者を育てるためにも、積極的に取り入れていく
- ②実習内容も子どもの理解を中心にすえて取り組む
- ③小学校・中学校の職場体験も積極的に受け入れていく
- ④ボランティア団体などを利用しイベントを行い、地域との連携をとっていく

・反省

昨年度の反省を生かし、小学生ボランティアの受け入れに制限導入。個別対応に細やかな配慮が実現
ボランティア参加者に参加意義と充実感の提供を図ることができた。

実習中に台風被害による休園措置というアクシデントがあったが、学校側と実習生との迅速な対応により
実習終了期日は延長したが、無事に全日程を終了することができた。
今回のようなインフラの機能停止による緊急事態では、連絡を取ることも困難であることが露呈した。
実習受け入れに関しても、予め緊急事態を想定したマニュアルが必要なのかもしれない。

・その他

令和元年9月、台風15号の影響による断水のため、9月10日・11日休園。12日断水後の水質調査の
為、全園児、職員弁当持参対応。

令和元年10月25日 集中豪雨による緊急引渡し連絡。
令和2年3月 新型コロナウイルス感染症の影響により、卒園式縮小開催。登園自粛要請。

○特別保育事業報告

* 一時保育事業

□事業方針

育児疲れや待機児童といった利用者の需要の多様化に伴い、一時保育のあるべき姿も変化しつつある中で、各家庭及び児童個人個人に添った対応を心掛け、支援を必要とする全ての家庭に合った支援を目指す事を目的とする。

□事業目標

多種多様な需要に、利用者の立場に立って考え、利用者が求める芯の部分を追求め、保育士の専門性を活かした対応を図る。

【実績報告】

・親子との信頼関係の築きと安心して預けられる場・過ごせる場の提供。

【現時点での達成したこと】

- ・面談・送迎の都度、言葉を掛け、家庭の背景を読み取ろうと努力し、子育て支援に貢献することができた。
- ・信頼関係を結べたことで、保護者が知り合いを紹介し利用登録をしてくれる人が増えた。
- ・一時保育を利用し、みどりが丘保育園へ希望する人がでてきた。
- ・保育園入園で待機児童となっている就労家庭の利用が多かった。予約の傾向や空き状況などの情報を利用者全体に伝え予約を取ってもらうことができた。

【今後の課題】

- ・子育てをする保護者の育児パートナーとして寄り添い、相談できる存在でいられるよう努力する。
- ・年齢層の違いや、登降園時間が違うため活動の制限がでてきてしまうこともあった。それでも、やれること・できることを常に考え子どもたちにとって最善の利益が得られるよう保育に取り組む。

【反省・感想】

- ・どうしても、0歳児の利用があると低年齢にあわせた生活リズムになってしまいがちだった。その他の年齢で利用回数が多い子には挽回のチャンスがあり、その際は特別感が味わえるような遊びを提供することができたのでよかった。個々を大切にしていける気持ちを心掛けることが大切と感じた。
- ・園外保育(散歩)する機会をもつことが少なかった。園外にでて地域の人と触れあったり、季節を感じ学ぶ経験がもっとできたらよかった。
- ・在園児との交流をたくさん持つことができた。生活習慣(着替え・トイレトレーニング等)を友達との関わりの中で影響し合い育ち合う経験ができたと思う。
- ・文部科学省による、一時預かり事業の実施要綱内の利用対象者について、「幼稚園に通っていない者」の部分を見逃していた。利用者に迷惑をかけることとなりしっかり把握できていなかったことに反省した。

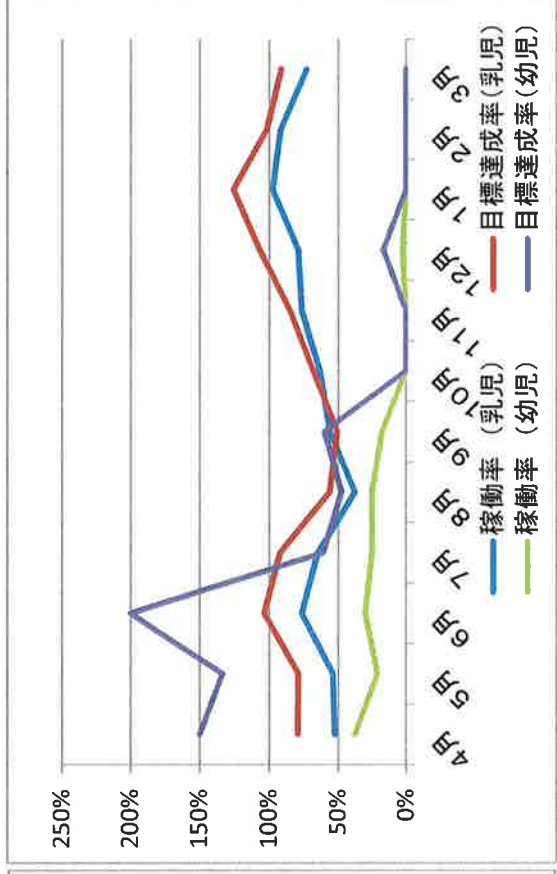
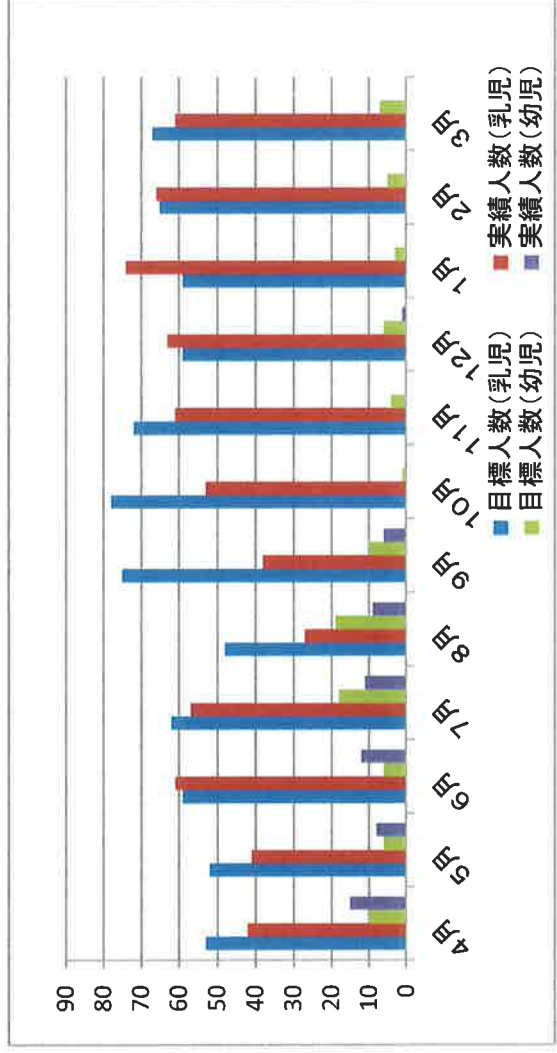
令和元年度 一時保育保育事業 実績報告

【乳児】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数(乳児)	53	52	59	62	48	75	78	72	59	59	65	67	749
稼働日数(日)	20	19	20	22	18	17	21	20	20	19	18	21	235
定員(人)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
実績人数(乳児)	42	41	61	57	27	38	53	61	63	74	66	61	644
稼働率(乳児)	53%	54%	76%	65%	38%	56%	63%	76%	79%	97%	92%	73%	89%
目標達成率(乳児)	79%	79%	103%	92%	56%	51%	68%	85%	107%	125%	102%	91%	100%

【幼児】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数(幼児)	10	6	6	18	19	10	1	4	6	3	5	7	95
稼働日数(日)	20	19	20	22	18	17	21	20	20	19	18	21	235
定員(人)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
実績人数(幼児)	15	8	12	11	9	6	0	0	1	0	0	0	62
稼働率(幼児)	38%	21%	30%	25%	25%	18%	0%	0%	3%	0%	0%	0%	89%
目標達成率(幼児)	150%	133%	200%	61%	47%	60%	0%	0%	17%	0%	0%	0%	100%



* 子育て支援センター ～つくしんぼくらぶ～

□事業方針

市内子育て支援センターと連携を図りながら、利用者のニーズを素早く察知し、地域の子育て支援に尽力を尽くす。

□事業目標

利用者とのコミュニケーションを密にとり、ニーズに合った支援と地域に密着した空間の提供を図る。

□年間実績報告

(実績報告)

- ・水遊び
 - ・園庭開放
 - ・遊戯室あそび
 - ・青空広場
 - ・給食試食会・やきいも参加
 - ・栄養士による離乳食指導
 - ・看護師による感染症・スキンケア指導
 - ・歯科指導
- ・行事・季節に合った製作あそび
 - ・クリスマス会
 - ・こいのぼり
 - ・ハロウィン
 - ・おひなさま
 - ・豆まき

(現時点で達成したこと)

- ・遊戯室利用時が、梅雨や夏場の暑い時期だったので、年齢の低い子も過ごしやすい環境の中で遊べていた。
- ・2, 3月の暖かい日はオープンルーム内で園庭に出て遊べるようにした。0歳児の利用が多かったが歩行も安定しており、入園前ということもあり保護者からとても好評だった。
- ・給食試食会は楽しみにして参加する親子が多く、賑わっていたことから次年度も充実していきたい。
- ・青空広場による親子で公園を散歩しながらの宝物探しでは、子どもの嬉しそうな笑顔・一緒に楽しむ保護者の姿が印象的だったのでこのイベントの回数を増やしていきたい。

(今後の課題)

- ・親子が気軽に利用できる場の提供を行っていき、予約なしでも利用できるようにしたい。
- ・園庭解放ではもう少し早い時間帯に出て在園児との交流が持てたら良かった。
- ・親子ふれあい遊びや体操、ダンスなど親子が負担なく楽しめる内容を工夫していきたい。
- ・外部の講師によるイベントを取り入れていきたい。

(反省・感想)

- ・マリルーム開園に伴い、利用者が減少していたが来園してくれた利用者一人ひとりに寄り添うことで何気ない会話の中で相談を受けることが多くなった。0歳児の利用者が多くいたので年齢にあった製作やイベント内容にすることで少しずつ利用者が増え、居心地を気に入ってくれる保護者がおり嬉しく思えた。
- ・年度後半は新型コロナウイルス対応により、支援センターを閉室することになり利用してくれた保護者の方に挨拶できなかったことが残念だと感じている。

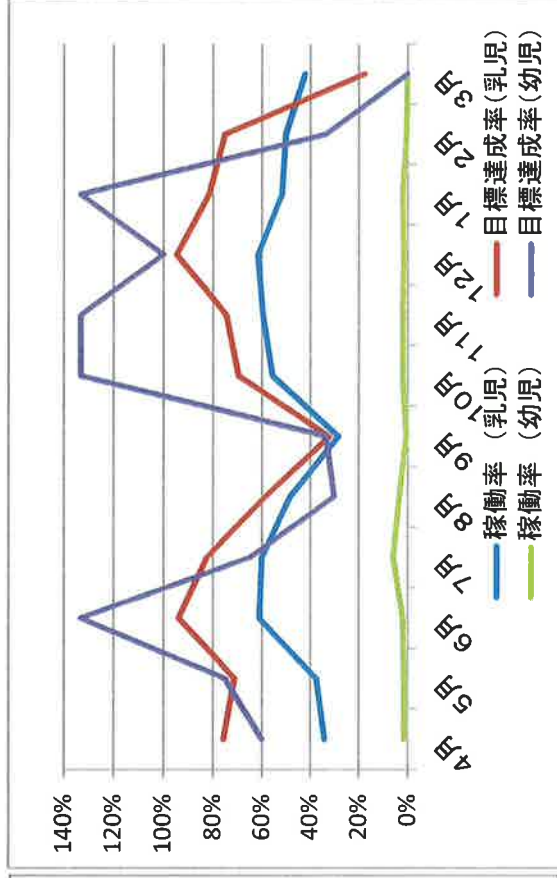
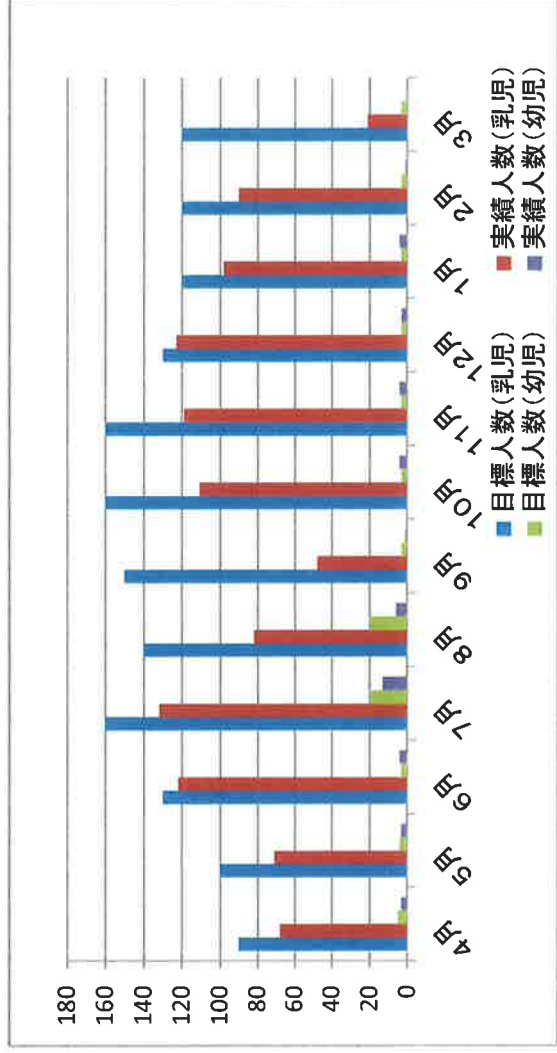
令和元年度 子育て支援センター事業 実績報告

【乳児】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数(乳児)	90	100	130	160	140	150	160	160	130	120	120	120	1580
稼働日数(日)	20	19	20	22	17	17	20	20	20	19	18	5	217
定員(人)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
実績人数(乳児)	68	71	122	132	82	48	111	119	123	98	90	21	1085
稼働率(乳児)	34%	37%	61%	60%	48%	28%	56%	60%	62%	52%	50%	42%	89%
目標達成率(乳児)	76%	71%	94%	83%	59%	32%	69%	74%	95%	82%	75%	18%	100%

【幼児】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数(幼児)	5	4	3	20	20	3	3	3	3	3	3	3	73
稼働日数(日)	20	19	20	22	17	17	20	20	20	19	18	5	217
定員(人)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
実績人数(幼児)	3	3	4	13	6	1	4	4	3	4	1	0	46
稼働率(幼児)	2%	2%	2%	6%	4%	1%	2%	2%	2%	2%	1%	0%	89%
目標達成率(幼児)	60%	75%	133%	65%	30%	33%	133%	133%	100%	133%	33%	0%	100%



* 病後児保育事業

□事業方針

病気の回復期であり、かつ集団生活が困難な期間において、仕事を休めない親に代わり、子どもの状態に合わせた適切な保育・看護を行う事業として、親子の安心につながる子育て支援に尽力を尽くす。

□事業目標

子どもがゆったりと安心して過ごせる「空間」と「対応」を心掛け、病気や怪我などの回復を促す。

□年間実績報告

<実績報告>

- ・病後児保育年間利用者、3年連続200人達成

<達成したこと>

- ・体調不良時や病欠明け時等に病後児保育の利用を促すことで、同症状や感染症の拡大防止につながったのではないかと思う。
- ・定員が3名と少人数なので、家庭的な雰囲気ですっきりと過ごせるように工夫し、コミュニケーションを密にとることができた。
- ・回復期にある児が対象なので、個々の体調や気温・天気等を考慮し、普段あまり行く機会のない園舎の周り等を散策したり、利用者がいない時を見計らって子育て支援センターや一時保育の部屋で遊んだりして、気分転換を図ることができたと思う。
- ・必要な時には午睡を長めにとったり、食事を軟らかめにしてもらったり、個々の症状や体調に合わせて対応ができた。また、鼻汁・鼻閉がみられる時は鼻水吸引をこまめに行なったり、ケガで痛みや腫れがみられる時は患部を冷やしたり、安静を保てるような遊びを取り入れたりして、症状の回復を促すよう心がけることができた。
- ・咳や熱後など様々な症状や病気の回復期にある児を受け入れるため、利用者同士で症状がうつらないよう、空気清浄機を常に使用。特に乾燥時や咳・鼻水がみられる時などには加湿機能も併用し、症状が少しでも軽減するように工夫することができた。
また、低年齢児が利用した時には、おもちゃ等を口に入れてしまうことが多いため、チャームリストを使い、その都度消毒し他児に症状がうつらないよう気をつけることができた。
- ・体調不良や病気で欠席・早退した場合、個々に声かけをして病後児利用を検討してもらった。
- ・送迎時や連絡帳で個々の体調の情報共有を保護者と行い、体調に合った保育・看護を行うよう心掛けた

<今後の課題>

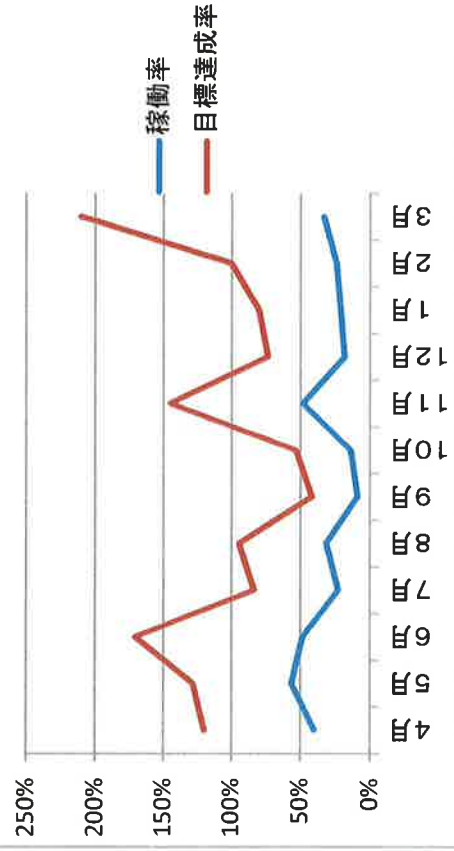
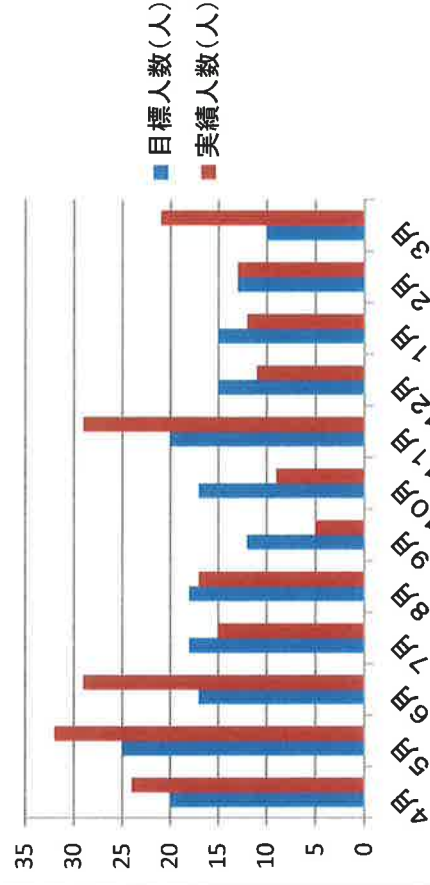
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で登園自粛要請があるため、年度初めの利用が少ない分、年間利用者数の減少が見込まれる。
- ・利用の際には子どもの様子を細かく伝えたり、症状に対して行った看護や処置などを伝えたり、子どもに対してだけでなく、回復期の子どもを安心して病後児保育を利用できるよう保護者へのアプローチ等の工夫をしていき、体調不良後の回復期＝病後児利用という体制作りを取り組む。
そして、それが感染拡大防止や保護者の意識変化にもつながっていくよう努力する。

<反省・感想>

- ・病後児室が、子どもにとっていつものクラスにはない玩具で遊べたりする特別なところで、優越感やワクワク感を感じて利用できたと思うが、嫌がらずに安心して利用できるように、特に低年齢児はクラスに入って信頼関係を築くようにすることが大事なので、時間のある時はクラスに積極的に入ったりして子どもと接する機会を多くもつよう心がけていきたいと思います。

令和 元年度 病後児保育事業 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数 (人)	20	25	17	18	18	12	17	20	15	15	13	10	200
稼働日数 (日)	20	19	20	22	18	19	22	20	20	19	18	21	238
定員 (人)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
実績人数 (人)	24	32	29	15	17	5	9	29	11	12	13	21	217
稼働率	40%	56%	48%	23%	31%	9%	14%	48%	18%	21%	24%	33%	89%
目標達成率	120%	128%	171%	83%	94%	42%	53%	145%	73%	80%	100%	210%	109%



○栄養課事業報告

□事業方針

保育園生活で意欲を持って食に関する体験を行い、食べる事を楽しみ合える様衛生と安全を心掛けた給食提供・食育活動を行う。

□事業目標

年齢別また、特に乳児は個々の成長や発達に合わせ子どもが無理することなく自然と食への興味や関心が持てるよう保育者、家庭と連携をとりながら食育、給食提供をする。

□年間実績報告

- ・昼食の給食提供ではレトルト食品は極力使わずに旬の食材を取り入れた手作りで乳幼児が必要としている栄養価を考慮したバランス良い献立を作成。
また、噛む力を育てる為、かたさ・やわらかさや食材の切り方にも工夫した。
- ・離乳食では個々のご家庭で1度試して問題がない食材を聞き取り、連携を取りながら、月齢だけではなく、1人1人の成長に合わせた離乳食作りを行った。
- ・おやつ提供では、昼食で補えない栄養価の他に子ども達の嗜好も取り入れ、長い時間を保育園で過ごす子ども達にとって楽しみの1つになるよう、心掛けた。
- ・食物アレルギー疾患を持つ子どもには『保育園生活における生活管理表』と任意で『血液検査結果のコピー』を提出していただき、アレルギー原因食の除去、及び代替え食の提供に誤飲誤食がないよう、専用食器、プレートを使用しながら事故防止に努めた。

(年齢別・その他)

①0歳児

子どもが慣れている哺乳瓶を家庭から持参していただき、調乳をし、毎回哺乳瓶専用洗浄スポンジ、洗剤で洗い、滅菌をして衛生を保った。
上記に記した通りの離乳食提供を行った。

②1～2歳児

主食、副食給食の完全給食に加え、10時と15時のおやつを実施。

③3歳以上児

主食、副食給食の完全給食に加え、15時におやつを実施。
(但し、毎月主食費1000円を徴収させていただいたが、10月より幼児教育課程無償化に伴い、主食費1000円、副食費4500円に金額を変更し徴収)

④おやつ

週に2～3回、手作りおやつを実施。
土曜保育、延長保育時の捕食を実施。

⑤食育活動

- ・全年齢を通して、食事マナーの指導。
- ・『食』に興味関心を持てる環境作りとし、園庭裏に畑を作り、夏野菜栽培を行った。
- ・乳児クラスでは、野菜スタンプや野菜の皮むき、おにぎり屋さんや焼きうどん屋さんごっこを行い、職員が目の前で調理するなど、食への興味を促した。
- ・3歳以上児を対象に年間食育計画に基づいた季節毎のクッキング活動を行った。
特に年長児は今までの経験を生かし、夏野菜を使った野外クッキング、保育参加では親子クッキング、レストランごっこを実施した。
- ・職員宅の畑で収穫したさつま芋を使用し、園庭裏の畑にて焼き芋をメインとした収穫祭を行った。

⑥給食会議

毎月1回、園長、保育士が参加し栄養士、調理師を中心に普段の食事の様子や食育計画、マナー指導などの会議を実施。

⑦地域貢献

子育て支援センターにて、栄養士による『離乳食について』の講演と、給食試食会、食事相談、焼き芋大会を実施。

□反省

- ・年度初めに年齢別食育年間指導計画を制作し、基本的には計画に基づいて各クラス実施することが出来ていたと思う。但し、野菜の栽培に関しては指導計画とは別で行っているクラスもあり、異年齢同士の話し合いが必要だったように思う。
- ・年長児が行う保育参加での『レストランごっこ』では、4回目ということもあり、職員同士協力して進めることが出来た。また、一昨年度の反省から3、4歳児の保育参観とは別日を設けて、レストランごっこの日を設定したため、食事中もざわつくことなく、和やかな雰囲気を実施することが出来た。

□その他

- ・新型コロナウイルス感染予防による、家庭保育をお願いしたことで3月は給食実食数が大幅に変動した。今年度も国に緊急事態電源により、予測外の給食実食数が予測されるが、業者とも上手く調整しながら無駄なく提供していく必要がある。

令和元年度 年間行事

みどりが丘保育園

	行事内容	場所	備考
4月 1日(月) 18日(木) 19日(金) 26日(金)	・入園・進級式 ☆新入園児保護者参加行事 ・乳児保護者会17時～18時 ・幼児保護者会17時～18時 ・子どもの日サークル	遊戯室(9:30開始) 遊戯室 遊戯室 遊戯室	
5月 17日(金) 21日(火) 15日(木) 22日(水) 24日(金) 28日(火) 30日(木)	・春の遠足(こすもす)※弁当持参 ・遠足予備日(こすもす)※弁当持参 ・保育参加(幼児)☆幼児組保護者参加行事 ・春の遠足(あじさい)※弁当持参 ・春の遠足(ひまわり)※弁当持参 ・歯みがき教室 ・歯みがき教室	苗植え	
6月 6日(木) 10日(月)～25日(火) 11日(火) 21日(金) 27日(木)	・からだのがっこう ・保育参観(乳児)☆乳児組保護者参加行事 ・内科検診(13時～) ・6月のイベント(人形劇団KAI) ・歯科検診(10時～)	遊戯室 ※フリー参観型 遊戯室 遊戯室 遊戯室	
7月 4日(木) 5日(金) 10日(水) 12日(金)	・からだのがっこう ・七夕まつり ・プール開き ・夏祭り ☆保護者参加行事	遊戯室 遊戯室・園庭 園庭 園庭	
8月	夏季保育		
9月 5日(木) 6日(金) 10日(火) 12日(木)	・からだのがっこう ・引き渡し訓練 ☆保護者参加行事 ・9月のイベント(交通安全教室10:00～11:30) ・敬老会	遊戯室 遊戯室・園庭 遊戯室	台風の影響で中止 台風の影響で中止
10月 5日(土) 11日(金) 18日(金) 24日(木) 25日(金) 28日(月) 29日(火) 30日(水)	・運動会 ☆2.3.4.5歳児保護者参加行事 (対象:こすもす・ひまわり・あじさい・たんぽぽ・ちゅうりっぷ) ・秋の遠足(こすもす)※弁当持参 ・遠足予備日(こすもす)※弁当持参 ・秋の遠足(ひまわり)※弁当持参 ・保育参加(乳児)☆乳児組保護者参加行事 親子ふれあい運動会(対象つぼみ・わかば・ふたば) ・遠足予備日(ひまわり)※弁当持参 ・内科検診 ・秋の遠足(あじさい)※弁当持参	大網小学校体育館 芋ほり 青葉の森公園 2歳児は保育室 0.1歳児は園庭 遊戯室 中央公園	
11月 1日(金) 7日(木) 12日(火) 14日(木) 5日(火)～21日(木) 21日(木) 27日(水) 28日(木)	・保育参加(3.4歳児対象)☆幼児組保護者参加行事 ・収穫祭(乳児組・特別保育対象) ・チーバ君と遊ぼう ・保育参加(5歳児対象)☆幼児組保護者参加行事 ・個人面談(幼児) ※別紙参照 ・収穫祭(幼児対象) ・消防訓練 ・歯科検診	遊戯室 遊戯室 遊戯室	
12月 2日(月)～18日(水) 日程未定 19日(木) 24日(火)	・個人面談(乳児) ※別紙参照 ・あすみ吹奏楽団 はみがき教室(3歳児対象・フッ化物洗口説明) ・クリスマス会 ※12月29日(日)～1月3日(金)休園	遊戯室 あじさい組・遊戯室 遊戯室	
1月 10日(金) 16日(木)	・お正月お楽しみ会 ・からだのがっこう ☆5歳児保護者参加行事	遊戯室 遊戯室	
2月 3日(月) 8日(土) 12日(水) 19日(水) 20日(木) 21日(金) 25日(火) 28日(金)	・節分 ・発表会 ☆幼児組保護者参加行事 ・地域交流会 ・歯みがき教室 ・歯みがき教室 ・卒園遠足(5歳児対象)※弁当持参 ・新入園児説明会 ・卒園遠足予備日(5歳児対象)※弁当持参	遊戯室 遊戯室 遊戯室 こすもす組 場所未定 遊戯室13:00～内科検診	
3月 3日(火) 11日(水) 19日(木) 21日(土)	・ひな祭り ・お別れ会 ・卒園式 ☆5歳児保護者参加行事 ・新年度準備	遊戯室 遊戯室 遊戯室	縮小開催(コロナ) 縮小開催(コロナ) コロナの影響で中止

◆毎月1回・・・身体測定・避難訓練

◆行事の詳細及び、日程の変更があった場合には、改めてお便り等でお知らせします。

◆青字は、その行事に該当する保護者が参加となります。※人数制限のある行事については備考欄を参照ください。

R 1 年度 保育園における自己点検・自己評価

◎保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育目標について	(1)保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	○				
	(2)目標は、各施設や地域の特色を生かしているか。		○			
	(3)目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。		○			
	(4)目標は、前年度の反省を生かしているか。		○			
	(5)目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。		○			
保育について	(1)指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。	○				・保育所保育指針を、より理解する為の勉強会が必要。 ・様々な環境を感じ、学び、考える事で、保育に幅がうまれる。 ・評価からうまれる反省点を、迅速に対応できるよう心掛ける。
	(2)保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。			○		
	(3)環境の構成を意識した保育や課程を常に工夫しているか。			○		
	(4)素材・用具を適切に活用しているか。		○			
	(5)評価結果を基に、保育の改善に努めているか。			○		
日時程	(1)1日に流れ(デイリープログラム等)は、現行でよいか。		○			
行事について	(1)行事の種類や実施回数は適切か。			○		・行事は、子ども達が何をしたいかを基に、話し合う必要あり。 ・季節の行事は、マンネリ化しがちなので、ねらいを見つめ直す。 ・年齢に即した内容を各クラスの活動に反映し明確化する。
	(2)行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。			○		
	(3)乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。			○		
	(4)計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	○				
	(5)保護者の願いや意見を取り入れているか。		○			
					・アンケートの内容を共有し、次回への反省へ取り入れている。	

※A、B、C、Dの4段階評価。 A:たいへんよい B:よい C:一部検討を要する D:改善を要する

◎保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
経営・組織	分掌・体制	(1)能率的、合理的な運営組織になっているか。			○		・業務の効率化を図るためにも、能率的な組織の構築を図りたい。 ・業務の明確化に努力は必要。職種間の偏りが無いよう注意。
		(2)職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。		○			
		(3)職員の配置は適材・適所か。		○			
		(4)係や仕事の分担・割り当ては適切か。		○			
	運営	(1)各種会議を適切かつ効率的に進めているか。		○			・定例会議の内容に一定の方向性が見えてきたが、修正点あり。 ・会議等で意見の吸い上げや共有を図るが、伝達不足も否めない。 ・時間にメリハリを持ち、明瞭かつ端的に進行していく。
		(2)職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか			○		
		(3)打合せ回数、時間、内容は適切か。			○		
	年齢別・クラス経営	(1)年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。		○			・クラス単位の活動が目立ちがち横の連携に強化が必要。
		(2)年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。		○			
		(3)年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。		○			
		(4)同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているのか。		○			
		(5)意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。			○		
		(6)評価、資料(諸記録)を集積しているか。	○				
	保健・安全指導	(1)年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。		○			・天候不良等により、十分に遂行できない部分があった。 ・地域社会との連携に多少の不安あり。積極的な取組が必要。
		(2)避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。			○		
		(3)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	○				
		(4)乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。			○		
	研究・研修	園内研究・研修	(1)研修主題は、保育目標の具現化につながるものであるか。		○		
(2)園内研修の計画・運営は適切か。				○			
(3)研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。					○		
(4)研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。					○		
園外研修		(1)各種研究会、研修会、講習会への参加姿勢の充実を図っているか。		○			・研修報告の場を更に充実させる必要がある。振返りも含め。
		(2)各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。			○		

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
情報について	(1)乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	○				<p>・最新情報の収集、かつ迅速な対応を図るための工夫が必要。</p> <p>・作成する時間に改善点があり業務の見直しが必要。</p>
	(2)公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。			○		
	(3)各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。			○		
施設・設備	(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。		○			<p>・掲示物を整理し、見やすい状態を保つ。</p>
	(2)遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。		○			
	(3)不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。		○			
	(4)掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。			○		
出納・経理	(1)各種会計を適正かつ適切に処理しているか。			○		<p>・来年度以降集金方法の変更予定現金の納期徹底を図る。</p>
開かれた保育園づくり	施設間交流・連携	(1)他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか。		○		<p>・近隣の小学校との関係を保ちながらも、教育への理解を図る場が少なく課題となる。</p>
		(2)他施設等の児童と触れ合う中で、乳幼児が充実感を味わえる配慮や援助・支援を行っているか。		○		
		(3)指導者間で、合同研修等にて互いの保育・教育に対するの共通理解を図っているか。		○		
		(4)参観や保育・授業に参加するなどして、幼稚園小学校の教育を理解しているか。			○	
		(5)日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。			○	
	地域交流・連携	(1)参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか。			○	<p>・保護者の参観のみに留まる。職場体験は積極的に受け入れ。</p>
		(2)保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。		○		
		(3)(乳)幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。		○		
	(4)地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。			○	<p>・地域のごみゼロ運動に今年度は参加できなかった。</p>	

項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
情報について	子育て支援の推進	(1) 地域の子育てセンターとして、園庭や中庭、保育室を解放しているか。	○				・相談場所としての認知度を上げていきたい。
		(2) 地域の子ども、あるいは親子と一緒に遊ぶことができる場の設定を行っているか。	○				
		(3) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。	○				
		(4) 職員による育児に関わる「子育て相談」は充実しているか。			○		
		(5) 医療機関、児相等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。		○			
	情報発信	(1) 園だより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報発信しているか。	○				・園内行事を周囲に発信することに工夫が必要。
		(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか。			○		
	外部評価	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。				○	・第三者評価の導入に至っていないが、今後検討。
(2) 地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。			○				